

# 木本編



クログネモチ  
長洲町の町木です

撮影場所：中央公民館東側、町史記載の樹木で当初は雄株、雌株の2本ありましたが、現在は雌株のみ

## 木本の概要

維管束の木部が発達し、多年生の地上茎のある植物で、葉っぱの生存期間によって落葉樹や常緑樹に分けられ、また茎（幹）の高さで高木と低木などに分けられます。

落葉樹：葉が1年以内に枯死・落葉し、緑の葉を全く付けない時期がある木本。

常緑樹：葉の生存期間が長く、1年を通じて緑の葉を付けている木本。

高木：中心になる太い幹（主幹といいます）が明瞭で樹高が8㍎以上となる木本。

小高木：樹高が3～8㍎で主幹が明瞭な木本

低木：根元から枝分かれしていて主幹が不明瞭な木本で、高さ1～3㍎の木本。

小低木：1㍎以下の木本。

## ソテツ（蘇鉄）

暖地に自生するソテツ科ソテツ属の常緑低木。雌雄異株。葉は長さ0.5～1.5mの羽状複葉で茎の先に叢生します。小葉は長さ8～20cm、暗緑色の線形。花は茎の先につきます。雄花（円内の写真）は長さ50～70cm、立ち上がりします。雌花は球形です。葉っぱの寿命が非常に長いです。



## イチョウ（銀杏）

イチョウ科の落葉高木。仏教と共に渡来したといわれ、神社や寺院に多いです。イチョウの葉は後から出る葉ほど葉柄が長くなっています（光合成を助けるためです）。脈は2双の平行脈で、葉は短枝に束生しています。葉は扇形で秋に美しく黄葉。雌株の木には秋になると葉腋に実が熟し、中に種子があり、食べられ美味です。



## キャラボク（伽羅木）

本来は山地に自生する樹木ですが、盆栽や庭園樹として植栽されるイチイ科イチイ属の常緑低木。枝は横に広がりながら斜上し、葉は線形で螺旋状に付きます。大山山頂部に自生種があります。雌雄異株で果実は赤く熟し果肉は食べられますが種子は有毒です。花期は3～5月。



## イヌマキ（犬槲）

暖地の林内に生え、生け垣として植栽されるマキ科の常緑高木。幹は直立し20㍍にも達し、ホンマキともいいます。刈り込みに強いので生け垣に使われます。雌雄異株で雌株の木には赤い花托と白緑色の実がつき、赤い花托の部分は食べられますが、実の部分は食べられません。



## ラカンマキ

生け垣として植栽されるマキ科の常緑高木。葉は枝に密生し、イヌマキより小さく幅も狭いです。枝は上向きで、斜下しません。イヌマキより綺麗なので最近生け垣に多く使われています。中国原産種。



## チョウセンマキ（朝鮮槲）

庭木として植栽されるイヌガヤ科イヌガヤ属の常緑低木。朝鮮という名がついていますが、朝鮮とは関係なく、イヌガヤの園芸品種です。イヌガヤは葉が2裂に並んでいますが、チョウセンマキは螺旋状に付いていません。時々先祖返りして2裂に並んだ葉を付けます。



## クロマツ（黒松）

海岸沿いに多いマツ科マツ属の常緑高木。雄松ともいい日本の海岸風景には不可欠の樹木です。庭園・盆栽樹でもあります。暴風・防潮樹として海岸などにも植栽されています。冬芽が白いのが特徴です。樹皮は灰黒色。老木になると深い亀甲状に裂け目が出ます。マツクイムシの被害を受け、枯れた樹木も多く目にします。



## アカマツ（赤松）

山地に多く、マツ科マツ属の常緑高木。雌松ともいいます。樹皮は赤褐色、冬芽も赤褐色、葉は2本ずつ束生し、7～12本の針状、葉の断面は半円形、根元は灰白褐色の膜状鞘に覆われています。花は4月頃に開花。球果は2年目の秋に熟し、中に翼を持った種子があります。



## ゴヨウマツ（五葉松）

本来は九州の中央山地などに自生する樹木ですが、葉が小さくて密につくので庭木や盆栽に仕立てられ植栽されているマツ科マツ属の常緑高木。山ではヒメコマツと呼んでいます。葉は1ヶ所から5本出るので五葉松、葉の長さは3～6芽で、葉の表面に白い気孔線があります。



## ショウタイマツ（小岱松）

庭木や盆栽樹として植えられるマツ科マツ属の常緑小高木。小岱山では低地は黒松が、中腹以上になると赤松となりますが、その間では両松が長い年月をかけ交雑が進み相黒松と呼ばれる独特の小岱松が生まれました。葉っぱは通常2枚ですが、小岱松では3葉の葉っぱも見られます（これも特徴の一つです）。



## ヒマラヤスギ

庭や公園に植栽されているマツ科ヒマラヤスギ属の常緑高木。幹は直立し高さ30㍍ほどになり、枝を水平に広げ円錐形状の樹冠となります。葉は短枝には束生し、長枝には螺旋状に付き、白色の気孔線があります。ヒマラヤ～アフガニスタン原産で、明治12年頃渡来しました。



## ウラジロモミ（裏白樅）

山地に生えるマツ科モミ属の常緑高木。六栄小学校に数本植樹されています。何故ウラジロモミが植栽されたのか分かりませんがモミに比べて大気汚染に強いので植えられているのかも知れません。別の場所にもあります。葉の裏に白い気孔帯が2本走り白く見えるのでこの名があります。



## モミ（樅）

マツ科モミ属の常緑高木。葉は3裂ほどの線形で、先端が2裂（これが特徴）し、触ると痛い。5月頃開花、雄花は黄緑色、雌花は緑色。果球ははじめ緑色、10月頃熟し灰褐色。日本特有の常緑針葉樹で、高さ40mにもなります。大気汚染に弱いので、車の排気ガスには注意です。



## メタセコイヤ

スギ科メタセコイヤ属の落葉高木。生きた化石として有名で1945年中国の奥地で発見されました。その種を分け苗木を育て、各地の公園などに植栽されています。枝や葉は対生し、小枝は秋に葉と一緒に落ちます。中国原産で、別名：アケボノスギ。



## スギ（杉）

スギ科スギ属の常緑高木。長寿の木です。樹齢3千年を超える木もあります。樹皮は赤褐色で縦に長く裂け、葉は針形で螺旋状につきます。花は2~3月、雄花は前年枝の先端に多数つき、雌花は1個です。雄花は枝の先端にある褐色の部分で、ここから花粉がでます。建築材・器具材として広く使われます。



## ヒノキ（檜）

ヒノキ科ヒノキ属の常緑高木。葉は鱗片状（鱗片葉）で交互に対生。裏面は葉が接するところに白い気孔線があり、Y字型に見えます。花は3～4月に開き、雄花は枝の先端に、雌花はその下にあります。写真では先端の雄しべから花粉がでます。下の方の茶色で丸いのが雌しべです。材は高級な建築材です。



## コノテガシワ（兎の手柏）

公園や庭園樹として植栽されるヒノキ科クロベ属の常緑高木。葉っぱが手のひらを立てたような形をした木です。この木には2つの形があり一つは1本の主幹があって背が高くなるタイプと、地際から沢山の枝を出して円錐形の樹形になるタイプで、後者が庭木として好まれます。中国原産です。



## オウゴンクジャクヒバ

ヒノキ科ヒノキ属の常緑小低木。黄金色の葉が美しく、花材として利用されます。樹形は円錐形になり、枝は斜上します。耐暑性には優れていますが、耐寒性がやや劣り、日照不足になると黄金色が出ないと云います。クジャクの名は枝葉の形をクジャクの尾羽に見立てたものです。



## カイズカイブキ（貝塚伊吹）

庭や生け垣、あるいは道路の分離帯などに植栽されるヒノキ科ビャクシン属の常緑高木。本名はイブキ（またはビャクシン）といいます。葉には2形あって通常は細い紐状の鱗片葉が3輪生していますが、老木や刈り込んだ後に緑白色の葉が3輪生して出てきます。中国原産です。



## マダケ（真竹）

イネ科マダケ属の常緑多年生竹。各節に枝を2本ずつ出し、枝の出た上の節間には溝が出来ます。高さ20㍍ほどでになります。寿命は120年、花が咲くと枯死します。椅子や籠、定規、竹馬、扇の骨、七夕飾りなど工芸品や家具材として利用されます。中国原産の帰化種。



## モウソウチク（孟宗竹）

イネ科マダケ属の多年生常緑竹。高さ10～20㍍、直径8～20㍍になります。桿は肉厚なので竹製品の材料にします。タケノコは4月に出て太く食用にします。枝は節から2本ずつ出て、節の環が1本なのが特徴です。竹の皮は物を包むのに利用します。



## ホウライチク（蓬萊竹）

熱帯性イネ科ホウライチク属の常緑性竹。地下茎は余り発達せず、植えられた原点を維持するので、境界などに植えられています。稈は密に束生し、肉厚で重く水に沈むので沈竹ともいいます。



## オカメザサ（阿亀笹）

山野に生えるイネ科オカメザサ属の常緑性竹。和名は浅草西の市で、この竹に阿亀（おかめ）の面などを付けて売ったことによります。節から短い枝を数本出して先端に1枚の葉をつけます。笹と名が付いていますが竹の仲間です。葉は長さ6～10㍍、広披針形で裏面に微毛があります。



## メダケ（女竹）

川岸の土手などに群生するイネ科メダケ属の常緑多年生笹。高さ4㍍ほどになり、節から多数の枝を出し、葉は小枝の先に3～6枚ずつつき、長さは30㍍ほどになります。肩毛は直立して平滑です。竹の皮は稈を包んだまま宿存しています。笹の中では最も大型です。



## ナギイカダ

ユリ科ナギイカダ属の常緑小低木。昔は学校の校庭などで見かけましたが、最近はほとんど見かけなくなりました。葉のように見えるのは枝が変化した葉状枝で、長さ3割ほどの卵形です。葉は葉状枝の付け根にあり鱗片状で小さいです。花は3～5月に咲き、果実は10月頃赤く熟します。地中海沿岸原産です。



## サルトリイバラ（猿取茨）

山野の林縁に生えるユリ科サルトリイバラ属の落葉つる性木本。茎に鋭いトゲがあって猿さえも捕らえてしまうであろうという意味からこの名があります。ダンゴノハとも云い、この葉で団子を包み蒸します。花は4月中旬、小さな黄色の花を開き、果実は晩秋の頃、径7～10mmの赤い艶やかな実が熟します。



## シュロチク

庭などに植栽されるヤシ科ラピス属の常緑低木。チクという名がついていますが椰子の仲間です。葉が半円形に展開し小葉は7～20枚ほどあり、葉の先端が尖っています。カンノンチクと同じように観賞用として植栽されています。中国南部～南西部原産です。



## カンノンチク（観音竹）

庭などに植栽されるヤシ科ラピス属の常緑低木。チクという名がついていますが竹ではなく椰子の仲間です。葉が扇形に展開し、小葉は3～10枚ほどあります。シュロチクに比べて葉の幅が広くて短めです。観賞用として鉢植えにもされます。中国東南部原産です。



## シュロ（棕櫚）

ヤシ科シュロ属の常緑高木。高さは10㍎にも達します。利用価値の高い木で、葉柄の基部に出来る三角状の繊維の部分をシュロ毛といってシュロ縄や、たわし、帚などに使います。また長い柄を持つ葉を編んでハエタタキを作ったり、材は釣鐘を叩く撞木として使われます。



## ピロウ（檳榔）

街路樹などとして植えられているヤシ科ピロウ属の常緑高木。塩害に強い樹木で海浜公園などにも植栽されます。高さは15㍎ほどになり、葉柄は2㍎ほどで、葉は直径2㍎ぐらいで中央近くまで裂けています。中国南部原産です。



## カナリーヤシ（別名：フェニックス）

公園や学校などに植栽されるヤシ科ナツメヤシ属の常緑高木。高さ12mほどになります。葉は羽状複葉、基部の小葉は鋭いトゲになり、弓状に下垂する葉は5mにも達します。宮崎県の県木で、南方気分を高めるため街路樹として植えられています。別名フェニックス。カナリヤ諸島原産です。



## センリョウ（千両）

暖地林内に生えるセンリョウ科の常緑低木。葉は対生し、長楕円形。縁には粗く鋭い鋸歯があります。枝は葉の付け根の直ぐ上が膨らんでいます。死環が出来ます。果実は冬に赤く熟します。センリョウ、マンリョウ、アリドオシを植えると千両・万両・有り通しでお目出たいといい庭に植えます。直射日光を嫌うので日陰に植えます。



## ネコヤナギ（猫柳）

水辺に生えるヤナギ科ヤナギ属の落葉低木。花序がエノコログサの花序に似ているのでエノコロヤナギとも呼ばれます。葉は互生し、縁に細かい鋸歯があり、葉が出る前に尾状花序をつけ、雄花序は長さ3～6cm、雌花序は雄花序より小さいです。花期は3月。



## シダレヤナギ（枝垂柳）

公園などに植えられるヤナギ科ヤナギ属の落葉高木。細い枝が枝垂れるのが特徴です。葉は長さ8～12㍉の線状披針形、縁に細かい鋸歯があります。表面は緑色で裏面は粉白色です。別名イトヤナギと云います。花期は3～4月。



## カワヤナギ（川柳）

川岸などに生えるヤナギ科ヤナギ属の落葉低木。葉は長さ7～15㍉の線状披針形で縁に鋸歯があります。表面は緑色で裏面は白緑色です。若葉は両面に軟毛が密生しています。花期は3～5月。護岸樹として植栽されていましたが、護岸がコンクリート化され最近は少なくなりました。



## ヤマモモ（山桃）

山地に生えるヤマモモ科ヤマモモ属の常緑高木。雌雄異株。若木では葉っぱに鋸歯がありますが、成木では鋸歯がありません。裏面に黄色の腺点が見られます。花は3月下旬、実は径15㍉内外の球形で、梅雨の頃に暗紅紫色に熟して美味ですが、痛みやすいので注意。樹皮は染料に使われます。



## オニグルミ（鬼胡桃）

クルミ科クルミ属の落葉低木。山野の川沿いなどに生えます。若枝には黄褐色の軟毛がありふわーっとしています。葉は奇数羽状複葉で小葉は5～9対あります。花は5～6月に開花、雄花は前年枝の葉腋から垂れ下がり、雌花は本年枝の先に直立。核果は直径約3㍉で種子は食べられます。



## シナサワグルミ（支那沢胡桃）

クルミ科サワグルミ属の落葉高木。樹皮は縦に短冊状の割れ目が出来ます。葉は偶数羽状複葉で互生し、葉軸に翼があります。花は5月頃、30㍉ほどの花序を垂らします。冬芽は裸芽で多数の副芽（側芽ともいう）を持っています。成長が早いので緑化樹として使われます。中国原産です。



## クヌギ（櫟）

山野に生えるブナ科コナラ属の落葉高木。葉は互生、鋸歯があり、裏面脈上を除き無毛です。側脈は平行に走り、鋸歯につながり、ノギは2～5㍉突き出しています。堅果は翌年の秋に熟し、直径約2㍉と大型で下半分が殻斗に包まれています。ドングリ（堅果）はタンニンが多く食べられません。



## ウバメガシ（姥目櫨）

海岸沿いの山地に生えるブナ科コナラ属の常緑小高木。備長炭の原木です。潮風にも強く、都市の環境汚染にも耐える樹木です。葉は硬葉で、裏面に星状毛があります。4～5月、本年枝の下部に雄花序を、上部の葉腋に雌花序をつけます。堅果は翌年の秋に熟し、殻斗は腕形、瓦状です。



## ツブラジイ（円ら椎）

暖地の山地に生えるブナ科シイノキ属の常緑高木。老木には割れ目ができます。堅果は球形（円らな、という感じ）で翌年秋に熟し、食べられ、美味です（美味なのはタンニンが少ないため、ドングリの中で一番少ないです）。花は5～6月、雄花序は垂れ、雌花序は上部葉腋に上向きにつきます。



## スダジイ

暖地の山地に生えるブナ科シイノキ属の常緑高木。ツブラジイとよく似ています。樹皮の様子や葉や実の大きさが違うので区別できますが、難しいです。堅果は翌年の秋に熟し、殻斗が堅果全体を包んでいますが熟すと3裂します。ドングリには稜があり、タンニンが少なく、食べられ美味です。花期は5月。



## アラカシ（粗櫨）

山野に生えるブナ科コナラ属の常緑高木。暴風・防火林として家の周りに植栽されます。冬芽を上から見ると五角形です。葉を2つに折ると、上半分のほうが幅広いです。4～5月、花を付け、雄花序を垂らし、葉腋に雌花を1～3個つけます。堅果は秋に熟し、殻斗には6～7個の環があります。



## シラカシ（白櫨）

山野に生えるブナ科コナラ属の常緑高木。材は白色です。ウラシロガシに似ていますが鋸歯は低いです。葉は互生し狭長楕円形で先は細くなって尖ります。裏面は淡緑白色です。花は4～5月、雄花序は垂れます。堅果は年内に熟し、6～8個の環があります。



## クリ（栗）

山野に生えるブナ科クリ属の落葉高木。果樹として植栽され、最高に美味です。葉っぱの形がクヌギの葉に似ていますが、ノギがクヌギに比べて短く、先端まで葉肉がありますので見分けがつかず。花は6月頃。雄花序は上向きに、雌花は雄花序の基部にあります。



## シリブカガシ（尻深樫）

山地に生えるブナ科マテバシイ属の常緑高木。果実（ドングリ）の底が凹んでいるのが特徴です。ドングリには白粉がついていますが、手袋などで拭き上げると、光沢を増して綺麗になります。花と実を同時に見る事が出来、ドングリは翌年の秋に熟し食べられます。花期は9月。



## マテバシイ

沿岸地に生えるブナ科マテバシイ属の常緑高木。公園樹としてよく植えられ、また暴風・防火林として家の周りにも植栽されます。葉は厚い革質で光沢があります。6月頃開花し、5～9本の雌花序を斜上します。堅果は大きく長さ3本ほど、翌年の秋に熟します。ドングリは食べられ美味です。



## アキニレ（秋楡）

山野に生えるニレ科ニレ属の落葉高木。樹皮は鱗片状に剥がれます。葉は互生し鋸歯があり、側脈は鋸歯につながっています。主脈と側脈の付け根に毛玉があります。9月頃、淡黄褐色の花をつけ、翼果は11月頃淡褐色になり、中央に種子があります。公園樹として植栽されています。



## エノキ（榎）

山野に生えるニレ科の落葉高木。葉の上半分に鈍鋸歯、葉身の基部は左右不揃いです。4～5月、淡黄褐色の小さな花を開きます。果実は6～7mmの球形、茶褐色に熟します。子どもの頃、この実（熟す前の青い実がよい）を使って、エノミ鉄砲を作り遊んでいました。公園樹や、昔は一里木などとして植えられました。



## ケヤキ（欒）

山野に生えるニレ科ケヤキ属の落葉高木。直射日光が良く当たるように頂部に枝葉を集め、逆に日陰となる下枝は枯れますので帚形の樹形となります。ケヤキは水を運ぶ導管が太くて、水を吸い上げる速度も速いので成長も早いのです。従って水環境に恵まれた土地をケヤキは好みます。建築・器具材として広く使われます。



## ムクノキ（棕の木）

民家近くにも生えるニレ科ムクノキ属の落葉高木。棕鳥が好んで食べるのでこの名があります。葉の表面には短毛が散らばりざらつき、繭から糸を紡ぐ時に絹糸を手繰るのにムクノキの葉を用いました。また、乾燥した葉は骨や角の研磨に用います。果実は球形で紫黒色に熟し、甘くて食べられます。



## クワ（桑・山桑）

山野に生えるクワ科の落葉高木。樹皮は和紙の原料、葉は養蚕用、果実は食べられ、果実酒にも利用される優れたものです。葉は互生し、質は薄く、縁に不揃いの鋸歯があります。果実は8月頃赤く熟し、とても美味しいです。



## イヌビワ（犬枇杷）

クワ科の落葉低木。雌雄異株。小枝や葉柄を切ると白い乳液が出ます。葉は互生し、先は尖り、基部はハート型。葉柄の付け根に鉢巻き状の托葉痕があります。イヌビワとイヌビワコバチの共生関係は有名で、イヌビワコバチが居ないとイヌビワも生きられません。雌花の果のうは食べられますが、雄花の果のうは食べられません。



## イチジク（無花果）

果実を食用とするため栽培されるクワ科イチジク属の落葉低木。紀元前3000年頃から栽培が始まったといわれています。果実は生食の他、ジャムや乾果などにします。果実は9月頃より熟し店頭に並びます。西アジア～アラビア南部原産です。



## オオイタビ

クワ科イチジク属の常緑つる性木本。枝を切ると白い乳液がでます。葉は互生し、全縁。葉は革質で、托葉または托葉痕があり、枝、葉柄に褐色毛があります。脈は細脈まで裏面に著しく隆起し網目状に脈が走っています。似た種にヒメイタビがあり、見た目はほとんど同じで、葉っぱが少し小さく、毛が多いです。



## イワガネ（岩が根）

山野の川沿いなどに生えるイラクサ科ハドノキ属の落葉低木。高さ2mほどで、どちらかといえば日陰の湿った所に群生しています。花は3～4月頃、前年枝の葉腋に雄花と雌花が団子状につきます。



## アケビ（木通）

山野林縁に生えるアケビ科の落葉つる性木本。葉は掌状複葉、小葉の先端が少し凹みます。花は4月、雄花は花序の先に、雌花は花序の基部につき、雄花より大きいです。果実は長さ約8cm、熟すと裂けます。果実は美味です。莖は薬用として腎臓炎や膀胱炎のむくみに用いられます。



## ミツバアケビ（三葉木通）

山野の林縁に生え、他の木に巻きつくアケビ科の落葉つる性木本。葉は3出複葉。4月ごろ淡紫色の花をつけます。雄花は花序の先に、雌花は花序の基部につき雄花より大きいです。果実は長さ約8㍉、熟すと赤紫色を帯び、縦に割れます。食べられ、種の部分が甘くて美味しいです。



## ムベ（郁子・野木瓜）

山野林縁に生えるアケビ科の常緑つる性木本。葉は掌状複葉、小葉は5～7枚あります。花は4月、数個が下向きに咲きます。果実は長さ8㍉程になり紫色に熟し、熟してもアケビのように口を開かないのが特徴です。食べられ美味です。民家の庭などにも生えています。



## ナンテン（南天）

暖地に生えるメギ科ナンテン属の常緑低木。葉は2～3回奇数羽状複葉、葉柄の基部は暗赤色で、鞘状になって茎を抱いています。果実は直径6～7㍉の球形、冬に赤く熟します。咳止めの薬として用いられます（南天のど飴など）。花期は5～6月。



## シロミナンテン（白実南天）

暖地の庭などに植えられているメギ科ナンテン属の常緑低木。高さ2mほどになり、葉は3回3出複葉で小葉は8割ほどの広披針形をしています。茎先に円錐花序を出し花弁6枚の白い花を付け、果実は球形で白く熟します。ナンテンの園芸種です。花期は10～3月。



## ホソバヒイラギナンテン（細葉柊南天）

メギ科ヒイラギナンテン属の常緑低木。葉は枝先に集まってつき、奇数羽状複葉で、葉質は硬いです。花は9月頃、黄褐色の花を開きます。果実はほぼ球形で藍黒色に熟します。中国原産で観賞用として栽培されます。



## ヒイラギナンテン（柊南天）

庭木として植栽されているメギ科ヒイラギナンテン属の常緑低木。高さ3mほどになります。葉は奇数羽状複葉で枝先に集まって互生し、縁に粗い鋸歯があり鋸歯の先端は針状に尖っています。3月茎先に繖状花序を出し黄色の花を付け、実は秋に黒く熟します。



## セイヨウヒラギナンテン（西洋柊南天）

公園や庭に植栽されるメギ科の常緑低木。高さ3mほどになり、葉は奇数羽状複葉で、葉縁に鋸歯があり、鋸歯の先はトゲになっています。冬の寒空に威勢良く黄色の長い総状花序を立ち上げ、花は直径約5mmで芳香があります。果実は白粉をかぶった青～青紫色の楕円形です。花期は真冬の11～1月。



## ロウバイ（蠟梅）

ロウバイ科ロウバイ属の落葉低木。お正月の頃、香りの良い花を付けるので庭木として植栽されます。葉が出る前に黄色の花を横向き～下向きに開きます。花が蠟細工のようなところから「蠟梅」あるいは、臘月（旧暦の12月）頃に咲く梅に似た花ということで「臘梅」とも書かれます。中国原産で、花期は12～1月。



## アオツツラフジ（青葛藤）

山野に生えるツツラフジ科アオツツラフジ属の落葉つる性木本。葉は互生し全縁で、葉柄は長いです。茎、葉柄、花枝などに毛があり、裏面には白色の毛があります。花は淡緑色、散房状に開きます。果実は青い球形で白粉をかぶっています。花期は7月。



## ホオノキ（朴の木）

山地に生えるモクレン科モクレン属の落葉高木。葉は互生ですが、枝先に輪生状につきます。葉柄の基部にくぼんだ托葉痕が見られます。材は軟らかく直進性があるので刀の鞘材として優れており、藩の侍達が山に植林したとも伝えられています。花期は5～6月。



## コブシ（辛夷）

山野に生えるモクレン科モクレン属の落葉高木。コブシの花が咲くと大豆の種をまかねばならないとか、コブシの花が多いときは豊作、少ないときは凶作など云います。花は4月、枝先に芳香のある白い6弁の花を開きます。花の下に葉が1個ついています。果実が握り拳のように見えることからコブシといいます。



## ハクモクレン（白木蓮）

公園や庭などに植栽されるモクレン科モクレン属の落葉高木。別名：ハクレン。葉は倒卵形で先端が突き出ています。托葉痕が鉢巻き状で、葉柄の基部がボート状に窪んでいます。花は3月、芳香のある白い花を開きます。ハクレンが咲くとやがてソメイヨシノが咲きます。中国原産です。



## シデコブシ

日当たりの良い湿地に生え、庭などに植栽されるモクレン科モクレン属の落葉小高木。高さ5mほどになります。花は葉に先立って、白色で芳香のある花を開きます。花弁と萼片が同じ色で区別しにくいですが、花は萼片と合わせて12～18枚あります。花期は3～4月。



## モクレン（木蘭）

モクレン科モクレン属の落葉小高木。花は4月、葉が出る前、枝先に暗紫紅色の花を上向き半開します。花弁は6個で長さ約10cm。雄しべ、雌しべとも多数あります。集合果は長楕円形、種子は赤色です。中国原産で観賞用に植栽されています。



## タイサンボク（泰山木）

公園などに植栽されるモクレン科モクレン属の常緑高木。高さは20mほどになります。葉は長さ20cmほどで、厚い革質です。5～6月、葉腋に直径15cmほどで芳香のある大輪の白い花を咲かせます。泰山木なので中国原産と思いがちですが北アメリカ原産で、明治の初期に渡来しました。



## オガタマノキ（招霊の木）

暖地の山地に生えるモクレン科オガタマノキ属の常緑高木。和名は招霊（おきたま）が転訛したものです。2月頃、葉の脇に直径3～4㍉の芳香のある花が咲きます。花弁と萼片はともに白色で基部は紅紫色を帯びています。神社に多く植えられ、神前にも供えます。



## カラタネオガタマ（唐種招霊）

庭園樹として植栽されるモクレン科オガタマノキ属の常緑小高木。葉は互生し、厚い革質で光沢があり、萼は黄褐色で褐色の毛が密生しています。4～5月に黄白色の花を付け、バナナのような香りがしますのでバナナの木とも云います。花の頃、木の近くを通るとバナナの香りが漂っています。別名：トウオガタマ。



## サネカズラ（実葛）

山野に生えるモクレン科サネカズラ属の常緑つる性木本。この蔓の皮を剥ぎ、水に浸しておくと粘液が出ます。この粘液を昔の男性が整髪に用いたということから、ピナンカズラともいいます。花期は8月。雌花は花の後花床が球状に膨らみ、球形の赤い果実をつけます。



## シキミ（楮）

暖地の林内に生えるモクレン科の常緑小高木。名は悪しき実（有毒）の略。葉は互生し艶があり、葉をもめば香りがあります。2月～3月にかけて、クリーム色の花を開きます。果実は集合果で八角形状の緑色、熟すと褐色の種子をはじき飛ばします。似た種にトウシキミがあり、果実は「八角」と呼び香辛料や医薬の原料に。



## クスノキ（楠）

クスノキ科の常緑高木。長寿の樹木です。葉は互生、全縁、薄い革質で光沢があります。樹皮には縦の裂け目が出来ます。三行脈は葉身下端の少し上から分かれ、その分かれ目に1対の膨らみがあります（ダニの部屋です）。葉をもむと樟脳の香りがし、この木から樟脳が採れ、材はタンスなどの家具材に用いられます。花期は5～6月。



## ヤブニッケイ（藪肉桂）

暖地の山地に生えるクスノキ科クスノキ属の常緑高木。革質で表面は光沢があり、3脈が目立ちます。葉をもむと樟脳の匂いがします。6～7月、葉腋に散形花序を出し、淡黄色の小さな花をまばらにつけます。果実は長さ約1.5cmの楕円形で、秋に黒く熟し、種子から香油を採ります。



## タブノキ（楡の木）

暖地の沿岸地に生えるクスノキ科タブノキ属の常緑高木。照葉樹の代表的な樹木。葉は枝先に集まって互生し光沢があり、葉をもむと良い香りがします。5～6月、枝先の円錐花序に淡黄緑色の小さな花をつけ、果実は約1匁の球形で黒紫色に熟します。花柄が赤いです。枝や葉はお線香の原料にします。



## シロダモ（白だも）

山野に生えるクスノキ科シロダモ属の常緑高木。葉は互生し革質、3脈が目立ち裏面は白色。10～11月頃、黄褐色の花を散形状に数個開きます。果実は楕円形で翌年の秋に赤く熟しますので、花と実を同時に見る事が出来ます。若葉（円内の写真）も花と見間違ふほど綺麗です。別名：シロタブともいいます。



## ヤマコウバシ（山香し）

クスノキ科クロモジ属の落葉小高木。枝を折るとほのかな香りがするのでこの名があります。晩秋の頃になっても枯れ葉が残り枝に付いたまま冬を越し、春になって新芽が芽吹く頃になってやっと落葉します。枝が節ごとに「く」の字に曲がり、葉は互生ですが、まれにコグサギ型の葉序が見られます。花期は4～5月。



## ゲッケイジュ（月桂樹）

クスノキ科ゲッケイジュ属の常緑高木。樹皮は灰色で皮目が多いです。葉は互生し、長さ7～10㍓の長楕円形で革質。縁は波打っています。4月頃、葉腋に黄白色の小さな花を散形状につけます。庭木として植栽される他、香辛料として葉っぱをカレーに入れます。地中海沿岸原産です。



## アジサイ（紫陽花）

庭や公園などに生えるユキノシタ科アジサイ属の落葉低木です。日本原産の野生種ですが、ヨーロッパで品種改良されて帰国しました。写真は装飾花のみのアジサイで、色も青色を主流に赤や赤紫など様々です。うっとうしい梅雨の頃に咲き、この花を見ると心も晴れてきます。花期は6～7月。



## ガクアジサイ（萼紫陽花）

暖地の沿岸地に生えるユキノシタ科の落葉低木。園芸種が多く、公園や庭、道端などに植えられています。葉は対生し、広卵形で、質は厚いです。6～7月枝先の散房花序に小さな両性花多数と少数の装飾花をつけます。花の色は淡青紫色、淡紅色、紫色など様々です。



## ウツギ（空木）

山野に生えるユキノシタ科ウツギ属の落葉低木。枝を切ると中が空っぽなのでこの名があります。ウノハナ（卵の花）の別名があります。葉は対生し星状毛が生えています。花は白色の5弁花で雄しべの花糸が幅広いです。実は径5mm内外で頂部に花柱を宿存しています。花期は5～6月。



## サラサウツギ

ウツギの八重咲き品種で、ユキノシタ科ウツギ属の落葉低木。花は外側が紅紫色、内側が白色で、古くから観賞用に植栽されています。花期は5～6月。



## トベラ（扉・海桐花）

暖地の海岸に生えるトベラ科トベラ属の常緑低木。葉は枝の上部で密に互生、長さ5～10cmの長楕円形で革質、光沢があります。4～6月、集散花序に白い花を開きます。蒴果は1～1.5cmの球形、熟すと3つに裂けて赤い種子を出します。公園樹として広く植えられています。



## ヒュウガミズキ（日向水木）

庭や公園などに植えられるマンサク科トサミズキ属の落葉低木。高さ3mほどになります。葉は歪んだ広卵形で裏面は帯白色です。3～4月、葉の出る前に淡黄色で長さ8cmほどの花を下向きにつけます。



## マンサク（満作）

山地林内に生えるマンサク科マンサク属の落葉小高木。早春の林内で「先ず咲く」からマンサクの名があり、また、花が枝一杯に咲くので豊年満作からの説もあります。花弁はリボン状で黄色、葉が出る前に咲きます。葉は互生し、菱形状円形～広卵形で、基部は左右の形が異なります。花期は2～3月。



## ベニバナトキワマンサク

庭園木として植栽されるマンサク科トキワマンサク属の常緑小高木。3月頃から咲き始め、赤紅色の花が密に咲きます。花弁は細長いリボン状でマンサク科の特徴を示しています。挿し木で増えるそうですが、難しいです。マンサクを台木に接ぎ木します。中国原産です。



## イスノキ（柞）

暖地の山野に生えるマンサク科イスノキ属の常緑高木。小枝が節ごとに「く」の字に曲がっています。葉は互生し、葉柄は短く、大小の虫えいが出来ま  
す。花には花弁がなく雄しべは5～8個で葯は紅色。蒴果は広卵形で黄褐色の毛が密生しています。灰は陶磁器の釉薬として使用されます。花期は4月。



## モミジバフウ（紅葉葉楓）

公園木や街路樹として植栽されるマンサク科フウ属の落葉高木。モミジバフウは葉がモミジに似ているのでこう呼ばれます。フウは葉が3裂していますが、モミジバフウは葉が5～7裂しています。秋の紅葉は綺麗です。中南米原産で、アメリカカフウとも云います。



## モミジバスズカケ（紅葉葉鈴懸）

スズカケノキとアメリカスズカケノキの雑種でスズカケ科スズカケノキ属の落葉高木。葉は互生し、長さ10～18㎝。鋸歯縁で掌状脈。主脈が基部の少し上で分かれています。托葉は枝を取り巻いてラッパ状となり、その痕が鉢巻き状の輪となって残っています。果実は球状の集合果です。花期は4～5月。



## ツクシイバラ（筑紫薔薇）

球磨川河川敷等に生えるバラ科バラ属の落葉低木。イバラに似ていますが、花は5月頃に開花し、花は淡紅色で直径3～5㍉と大きいです。小葉の裏面は毛が少なく、質がやや硬く、花柄や花序に長い腺毛が多いのが特徴です。町内にも栽培種があります。



## ノイバラ（野茨）

山野に生えるバラ科バラ属の落葉低木。枝に鋭いトゲがあり、托葉の1辺は葉柄に合着し、もう1辺はクシの歯状に裂けています。5～6月、枝先の円錐花序に芳香のある白い花が多数咲き、花は直径約2㍉。果実は直径6～9㍉の球形で赤く熟します。庭木、接木の台木、果実は薬用に用いられます。



## テリハノイバラ（照葉の薔薇）

日当たりの良い山野、河川、河原、海岸などに生えるバラ科バラ属の落葉低木。葉は奇数羽状複葉で互生し、長さ4～7㍉の楕円形で、小葉は2～4対あり光沢があります。花は直径3㍉ほど。花弁は5枚、花弁の中央が少し凹みます。花期は6～7月。



## フイチゴ（冬莓）

暖地の林内に生えるバラ科キイチゴ属の常緑つる性木本。果実が冬に赤く熟すのでこの名があります。真冬でも青々とした葉を広げています。花は8月頃咲き始め、10月頃まで見られ、花期のずれは果期のずれにもつながり、甘くて美味しい果実は11月頃から翌春まで楽しむことができます。



## カジイチゴ（構莓）

庭などに植えられるバラ科キイチゴ属の落葉低木。葉は厚くて光沢があり長さ10～20センチで掌状に3～7中裂し、縁は重鋸歯です。4～5月、枝先に直径3～4センチの白い花を開きます。果実は直径約2センチで淡黄色に熟し食べられます。トゲがないのが特徴です。



## ヤマブキ（山吹）

山野の少し湿ったところに生えるバラ科ヤマブキ属の落葉低木。花は若葉の展開と共に咲く黄色の5弁花で、直径は3センチほど、幹に1列に並ぶように沢山咲きます。太田道灌の故事が有名で実がつかないと思っている人もいますが、果実がつきます。八重咲きのヤマブキもあります。花期は4～5月。



## クサイチゴ（草莓）

山野に生えるバラ科キイチゴ属の落葉低木。茎や、枝葉には軟毛が密生し、腺毛やトゲがまばらにあります。葉は奇数羽状複葉。4～5月、短い枝の先に直径約4㍉の白い花を1～2個開きます。花弁は5個で平開。果実は直径約1㍉の球形で赤く熟し食べられます。



## シモツケ（下野）

日当たりの良い草地や礫地に生えるバラ科シモツケ属の落葉低木。葉は対生、長さ1～8㍉の披針形、または広卵形で先は尖り、縁に不揃いの鋭い重鋸歯があります。7月、枝先の複散房花序に直径3～6㍉の花を多数開き、5花弁で雄しべが花弁より長く、花が美しいので庭などに植えられます。花期は5～9月。



## コデマリ（小手毬）

庭や公園などに植えられるバラ科シモツケ属の落葉低木。葉は互生し、3㍉前後の菱形状長楕円形で、裏面は粉白色を帯びています。4～5月、枝先の散房花序に直径1㍉弱の小さな花が集まって3㍉ぐらいのボール状となって枝の上に並んでつき、垂れ下がります。中国中部原産です。



## ユキヤナギ（雪柳）

庭や公園などに植栽されるバラ科シモツケ属の落葉低木。高さ1～1.5mになり茎が弓状に曲がります。葉は互生し、長さ2～4.5mの狭披針形で先は鋭く尖り、鋸歯があります。4月、前年枝に集散花序で無柄の白い花を多数つけます。花冠は直径8mm、花弁は5個、雄しべ20個、雌しべは5個です。



## リキュウバイ（利休梅）

各所に植栽されているバラ科ヤナギザクラ属落葉低木。葉は互生し、長さ6～12mの楕円形でケヤキに似た鋸歯があります。4～5月、枝先に繖状花序を出し直径約4mの白い花を6～10個つけます。蒴果は広卵形で5稜があります。中国原産です。



## シュウガツサクラ（10月桜）

マメザクラとエドヒガンの雑種で観賞用に植栽されるバラ科サクラ属の落葉低木～小高木。秋から春にかけて咲くコヒガンの中で八重咲きのを10月桜として分類されています。花径は約3mで白色～淡紅色、萼筒が太い壺形で雌しべが長く突き出ています。花期は4月上旬と10～12月。



## シダレウメ（枝垂れ梅）

庭に植栽されるバラ科サクラ属の落葉小高木。芳香性の花が早春の訪れを告げます。枝垂れた枝に沢山の花を付け、簾のように垂れ下がるので「すだれ梅」とも呼ばれます。日当たりの良い敵湿潤地を好みます。花を觀賞する花梅と、果実を収穫する実梅があります。花期は2月。



## アンズ（杏）

中国原産でバラ科サクラ属の落葉小高木。花は前年枝の葉腋に1個つき、花径は約3㍻で小花柄はほとんどありません。萼筒は鐘形。杏の花は梅と違って萼片が反り返り、果実の表面に細かい毛があります。果実は果実酒に利用します。花期は2月～3月。



## カワツザクラ（河津桜）

カンヒザクラとオオシマザクラの自然交配雑種で觀賞用として植栽されるバラ科サクラ属の落葉低木。花は濃い淡紅色で早咲きで花径は約4㍻です。静岡県河津町では3月上旬に開花します。開聞岳の登山口に河津桜の並木があり2月中旬に咲き、開聞岳をバックにそれは見事でした。花期は2月下旬。



## ツバキカンザクラ（椿寒桜）

バラ科サクラ属の落葉小高木。カンヒザクラとカラミザクラの自然交配種で、愛媛県松山市の伊予豆比古命神社に原木があります。花径は3㍉弱で紅色、雄しべは長く伸び、萼筒はカラミザクラに似た杯形、小花柄に開出毛があります。観賞用として公園などに植栽され、花期は2月下旬～3月上旬。



## ウメ（梅）

庭や畑で栽培されるバラ科サクラ属の落葉小高木。花の全てが両性花ではなく、雌しべのない雄花だけの花もあります。花は2～3月、葉に先立って開き、通常白色ですが、紅色、淡紅色などがあり、花径は約3㍉。果実は2～3㍉の球形で食用（梅干し）とし、また果実酒などに利用します。



## オカメザクラ（おかめ桜）

カンヒザクラとマメザクラから生まれた交配種で観賞用として植栽されるバラ科サクラ属の落葉低木。花弁は直径2㍉弱と小さく下向きに咲き、平開しません。紅色が強く、花床（花托）が他のサクラに比べて長く、雌しべが突出し、これも長いです。萼片は三角形で鋸歯がありません。花期は2月下旬～3月上旬。



## タイリョウザクラ（大漁桜）

バラ科サクラ属の落葉小高木。満開を迎えた樹では大漁にふさわしい咲きっぷりです。花床は紅色、花弁は薄いピンク色。萼片の様子からカンヒザクラ系の種間雑種と考えられます。花期は3月上旬。



## サンバガワフユザクラ（三波川冬桜）

マメザクラとヤマザクラの種間雑種で観賞用に植栽されるバラ科サクラ属の落葉小高木。ソメイヨシノより一回り小さい白色の一重で初冬と春の2回花が開く珍しい桜です。群馬県多野郡鬼石町三波川、ここには3700本の桜があり、保存会が結成されています。庭石でも有名です。花期は2月下旬～3月上旬。



## オオカンザクラ（大寒桜）

カンヒザクラとオオシマザクラの種間雑種で観賞用として植栽されるバラ科サクラ属の落葉高木。薄いピンク色をした一重の冬桜。花径は2.5～3㍻で、花弁の先に細かな切れ込みがあります。萼筒は鐘形で萼片に鋸歯はありません。花期は3月上～中旬。



## スモモ（酸桃）

バラ科サクラ属の落葉小高木。果実を食用とするため栽培されます。品種改良によりすっぱさが減り果物として認知されました。花は葉脈に白い花を散形状に1～3個開き花径は約2㍎です。中国原産で、英語で「プラム」、フランス語で「プルーン」と呼んでいます。花期は3月。



## ハナモモ（花桃）

中国～ヨーロッパが原産地のバラ科サクラ属の落葉小高木。桃は食用として栽培されます。花径は3～4㍎で、花を観賞するのが花桃、実を食べるのが白桃です。八重咲き花桃もあります。花期は3月上～中旬。



## セイヨウミザクラ（西洋ミザクラ）

ヨーロッパから西アジアが原産地で食用として植栽されるバラ科サクラ属の小高木。散形花序に直径約2㍎の白い花を3～4個つけ、果実は球形。黄赤色または紫黒色に熟し、生食のほか、果実酒やシロップ漬け、製菓用に使われます。別名：サクランボ。花期は3月上旬。



## コシノヒガン（越の彼岸）

エドヒガンとキンキマメザクラの種間雑種で観賞用に植栽されるバラ科サクラ属の落葉高木。高さ10mほどになります。萼筒はくびれた壺形、雌しべに毛があります。萼筒の膨らみからエドヒガン系であることが分かります。花径は3～3.8cm。花期は3月中旬。



## ユスラウメ（桜桃）

バラ科サクラ属の落葉低木。4月頃白色で花径1.5～2cmの小さな5弁の花を付け、7月頃には赤い実が稔り食べられます。樹皮が不規則にはがれ、葉っぱは毛が多く独特の手触りです。朝鮮語の「いさら」がなまって「ユスラ」になったと云われています。ユスラウメの花弁はほとんど重なりません。中国原産です。



## カンヒザクラ（寒緋桜）

山野に生えるバラ科サクラ属の落葉低木。葉は長さ7～10cmの長楕円形または卵形で質は厚く、縁には浅い重鋸歯があります。葉より早く1～2月頃に緋紅色または桃紅色で直径約2cmの花が垂れ下がって咲きます。花は半開状です。正月桜ともいいます。中国南部～台湾原産です。



## ヒトエノニワザクラ

民家の庭に植えられるバラ科サクラ属の落葉低木。花が一重の庭桜で園芸種です。花期は3月中旬。



## ヤマザクラ (山桜)

山地に生えるバラ科の落葉高木。日本の野生桜の代表です。若葉は赤褐色で花と同時に開きます。葉柄は赤みを帯び上部に2個の腺体があり、花は白色または淡紅白色の5弁花が散房状に2～5個咲きます。花期は3月中～下旬。



## エドヒガン (江戸彼岸)

山地に自生するバラ科サクラ属の落葉高木で高さ30㍍ほどになります。葉柄や葉身には毛が多く、蜜腺は葉身基部についています。萼筒の基部が膨らんでいます（これが特徴です）。ヒガンザクラと混同されますが、ヒガンザクラはコヒガンザクラのことです。花径は2～2.5㍍。花期は3月中～下旬。



## イモセ（妹背）

バラ科サクラ属の落葉小高木。妹背とは親しい関係にある男女のことで、夫婦を指す場合もあります。2本の雄しべが突き出しており、結実すると1本の果柄の先に2つの果実が合着することがあり、これを夫婦に例えて名付けられました。花径は4.5㍉で淡紅色。外側の花弁が一部萼片化し、萼片は5個でなく7~8個あります。



## シンダイアケボノ（神代曙）

エドヒガン系の雑種で観賞用として植栽されるバラ科サクラ属の落葉高木。萼筒の基部が膨らんでいるのでエドヒガン系と分かります。花期は3月中~下旬。



## ヤエベニオオシマ（八重紅大島）

バラ科サクラ属の落葉小高木。オオシマザクラ系の品種で、花は淡紅色の八重咲きで花弁は19~28枚あり、少し香りがあります。花期は3月中~下旬。



## ヨウコウ（陽光）

カンヒザクラに「天城吉野」を交配してつくられ、観賞用として植栽されるバラ科サクラ属の落葉低木。萼筒が長鐘形で小花柄には毛が多いです。ソメイヨシノの開花期に大輪で紅色の花が咲くので人目を引きまます。花径は4㍉前後で、萼筒の様子からカンヒザクラ系であることが分かります。花期は3月中～下旬。



## ウジョウシダレ（雨情枝垂）

バラ科サクラ属の落葉低木。エドヒガンの栽培品種。栃木県宇都宮市の民家にあり、その屋敷に詩人の野口雨情が住んでいたため、この名があります。枝は枝垂れ、花径は約3㍉で八重咲き、萼や小花柄に毛が多く雌しべが長く突き出ています。萼筒は短い皿形で、花弁は平開し花の中心部までよく見えます。花期は3月下旬～4月上旬。



## シダレザクラ（枝垂桜）

バラ科サクラ属の落葉小高木。エドヒガンの突然変異種で幹の高い所から枝が横に広がり、細い枝が長く垂れ下がる種で、その姿が優美です。花は一重で色は白色～淡紅色、花径は3㍉弱。糸桜とも呼ばれます。花期は3月下旬～4月上旬。



## ヤエベニシダレ（八重紅枝垂）

エドヒガンの栽培品種で観賞用に植栽されるバラ科サクラ属の落葉小高木。仙台の伊達家にあった桜とか。樹高5㍍ほど。エドヒガンの中で枝が枝垂れて花が紅色の八重咲きで、花径は2～2.5㍍です。正常な雌しべが1～2本長く突き出ています。花期は3月下旬～4月中旬。



## キクモモ（菊桃）

バラ科サクラ属の落葉低木。花は鮮やかな桃色で八重咲きの中輪。花つきが良く、花弁が細く、花の形が菊に似ているのでこの名があります。花期は3月下旬～4月上旬。



## オオシマザクラ（大島桜）

伊豆諸島などに自生しているバラ科サクラ属の落葉高木。葉は倒卵状長楕円形で長さ8～13㍍で質はやや厚いです。両面とも無毛。花は新葉と同時に直径3～4㍍の白い花を3～4個散房状につけます。花は平開し香りがあり、桜餅には塩漬けにしたこのオオシマザクラの葉を使います。花期は3月下旬。



## ソメイヨシノ（染井吉野）

オオシマザクラとエドヒガンの雑種で、観賞用として広く植栽されるバラ科サクラ属の落葉小高木。葉は互生し縁は鋭い重鋸歯で、腺体は葉柄の上端にあります。花径は約4㍍、花心が赤味を帯びると、やがて散り始めです。材が硬いので、けん玉の玉などに使います。花期は3月下旬～4月上旬。



## フゲンゾウ（普賢像）

バラ科サクラ属の落葉低木。サトザクラの栽培品種。葉化した2本の雌しべが突き出しています。普賢菩薩が乗った象の鼻に似ているので、この名があります。花径は4～5㍍で、最も外側の花弁は淡紅色で内側の花弁は白色です。萼片に鋸歯があります。花期は4月上～中旬。



## オモイガワ（思川）

バラ科サクラ属の落葉小高木。久保田秀夫が栃木県の小山市東島田の小山修道院に栽培されていた10月桜の種子を蒔き、そこから開花したものが半八重咲きで美しい桜だった事から、近くを流れる思川に因んで名付けられました。その楚々と咲く姿は落ち着きがあり心も和みます。10月桜の雑種です。花期は4月上～中旬。



## ヨウキヒ（楊貴妃）

バラ科サクラ属の落葉小高木。奈良地方にあった桜で蕾は濃紅色ですが開花時には淡紅色となり花色も優れ花径は4～4.5㍎、豊満なので中国の楊貴妃を連想して名付けられました。細長い萼片に鋸歯はありません。正常な雌しべが1本あります。花期は4月上～中旬。



## ショウゲツ（松月）

バラ科サクラ属の落葉高木。東京荒川堤にあった名桜で、平野神社の撫子桜に似ています。花は最初淡紅色で次第に白色となり、葉化した雌しべがありません。花卉の先端が撫子のように切れ込んでいます。八重咲きで、花径は4～5㍎、萼片に鋸歯があります。花期は4月上～中旬。



## ギョイコウ（御衣黄）

サトザクラの園芸品種で観賞用として植栽されるバラ科サクラ属の落葉小高木。花径は3～4㍎で正常な雌しべが1本長く突き出ています。緑色と黄色が混ざっていて、花卉の中心に紅色の筋があります。花の色が変わっているので珍重されます。天草や各地で見られます。花期は4月上～下旬。



## ベニユタカ（紅豊）

北海道松前で育成されたバラ科サクラ属の落葉高木。花は濃紅色で豊かな十弁の桜となったのでこの名が付けられました。花期は4月上旬。



## カンザン（関山）

バラ科サクラ属の落葉小高木。東京荒川堤の桜として有名になったもので、花は濃紅色の大輪で花径は約5㍍の八重咲きです。この桜は寒さや害虫に強いので公園などに良く植栽されています。萼筒は漏斗形、萼片に鋸歯はありません。5分咲きの頃の花を摘み塩漬けにして「桜湯」として用います。花期は4月上～中旬。



## シロタエ（白妙）

バラ科サクラ属の落葉小高木。東京荒川堤に移植されたオオシマザクラ系のサトザクラの一種で、花は白色の大輪で、花径は5～6㍍です。花弁は円形で正常な雌しべを持っています。若芽は黄緑色で花にやや遅れて伸びます。萼片に鋸歯があります。花期は4月上～中旬。



## アメリカ

エドヒガンとオオシマザクラの交配種と考えられるバラ科サクラ属の落葉小高木。カリフォルニアの農園から広まったといわれ、米国ワシントン州のボトマック河畔に100本ほど植栽され、染井吉野よりもやや遅れて咲き、花は紅色が強いです。花径は3～4㍎。花期は4月上旬。



## コウカ（紅華）

北海道松前町で浅利政俊氏が育成したバラ科サクラ属の落葉小高木。濃紅色の花が蜜束状に咲き、咲き方が華やかなのでこの名があります。花期は4月上旬～中旬。



## ウコン（鬱金）

バラ科サクラ属の落葉高木。花柄は黄緑色で毛がなく長さ3～4㍎あります。花は淡黄緑色、最外部は外面が淡紅色を帯び、花径は4～4.5㍎、花弁は10～15枚で質はやや硬いです。花期は4月上旬～中旬。



## オオヤマザクラ（大山桜）

山地に生えるバラ科サクラ属の落葉高木。本来は北海道など北の国に多い桜ですが、九州では中央山地に自生種があります。4～5月頃、葉より早く紅紫色の花を開き、花径は約4㍎で山桜より大きく色も濃いです。最近小岱山にも北海道産の苗木が植えられています。



## アマノカワ（天の川）

バラ科サクラ属の落葉低木。東京荒川堤にあったサトザクラで、樹姿が帚状となり淡紅色の花が上向きに咲く珍しい品種です。枝が伸び上がる様子を天の川に見立てて名付けられました。花径は4㍎ほどで花に芳香があります。萼筒は上向きにつき、萼片に少数の鋸歯があります。花期は4月上～中旬。



## タオヤメ（手弱女）

サトザクラの雑種で観賞用に植栽されるバラ科サクラ属の落葉小高木。手弱女とは優美な女性の表現で、この花が優美なのでこの名があります。花弁の先端が濃い淡紅色で内側の白さを引き立てています。萼筒の皺が目立ちます。若芽も紅紫色で綺麗です。花弁の数は8～15枚、直径は3～4㍎。花期は4月上旬。



## ケンロクエンキクザクラ（兼六園菊桜）

サトザクラの雑種で観賞用に植栽されるバラ科サクラ属の落葉小高木。金沢市の兼六園に原木があります。花は細い花弁がボールのようにつく菊咲きです。花弁は300～350枚もあって桜の中で最も花弁の数が多いです。花径は4㍍前後、色は淡紅色で、萼片に副萼片があります。花期は4月上～中旬。



## ウワミズザクラ（上溝桜）

山野に生えるバラ科サクラ属の常緑高木。葉は互生し、卵状長楕円形で先は尖り、鋸歯の先もノギ状に尖っています。腺体は葉身の基部にあります。本年枝の先に繖状花序を出し、5弁花をサクラ属の花にしては珍しく歯ブラシ状につけますが、ひとつ一つの小さな花は桜に似ています。花期は5月中旬。



## ハナカイドウ（花海棠）

神社や寺の境内、庭などに植えられるバラ科リンゴ属の落葉低木～小高木。葉は互生し、長さ4～10㍍の楕円形で縁に細かい鋸歯があります。4月頃、枝先に直径3.5～5㍍の紅色の花が垂れ下がって咲きます。美人の形容に使われるほど美しい花です。中国原産です。



## ボケ（木瓜）

中国原産の園芸種で観賞用として植栽されるバラ科ボケ属の落葉低木。葉は楕円形で、3～4月、花は短枝の葉腋に数個つき、直径約3㍉、赤や白の花が咲きます。果実は長さ8～10㍉の楕円形で8月頃、黄色く熟します。



## カリン（花梨）

バラ科ボケ属の落葉小高木。高さ6～10㍍になります。樹皮が鱗片状にはがれます。4～5月、短枝の先に直径約3㍉で、淡紅色の花が1個ずつ咲きます。果実は長さ10㍉ほどの楕円形で秋に黄色く熟します。酸味が強いので生食は出来ませんが、果実酒にして飲むと声が良い、そうですが？。中国原産です。



## シャリンバイ（車輪梅）

沿岸地に生えるバラ科シャリンバイ属の常緑低木。枝や葉が輪生状に出て、花が梅を思わせるので、この名があります。葉の透視は良く、透かしてみると細脈まで見えます。花は5～6月、梅に似た白い花を付け、果実は径約10㍉程で黒茶色に熟します。樹皮は大島紬の染料に使います。



## ザイフリボク（采振り木）

山地に生えるバラ科ザイフリボク属の落葉小高木。花弁が線形なのでそれを四手に見立てシデザクラともいいます。4月中旬、枝先に白い花が密集して咲き、花弁は5個で長さ1～1.5㍉の線形。果実は直径約6㍉の球形で、赤色から黒紫色になります。



## ウラジロノキ（裏白の木）

山野に生えるバラ科ナナカマド属の落葉高木。葉は互生し裏面は綿毛が密に生えて白く、若い枝にも白い毛が生えています。縁は欠刻のある重鋸歯です。5月上旬、直径1㍉ほどの白い5弁の花を開き、果実は約1㍉の楕円形で赤く熟します。ナナカマド属ですが、ナナカマドのように紅葉はしません。



## カナメモチ（要藜）

暖地の丘陵や山地に生えるバラ科カナメモチ属の常緑高木。乾燥に強く、生け垣や庭木として植えられています。花は5～6月に咲き、径9㍉ぐらいで白色。果実は径5㍉で赤く熟します。名は赤芽モチの転訛したもので新芽が赤いことからつけられました。



## トキワサンザシ（常磐山楡子）

バラ科トキワサンザシ属の常緑低木。葉は互生し、長さ2～4㍉の倒卵形で、先は丸く、縁に細かい鋸歯があります。両面とも無毛です。花は短枝の先に散房花序を出し、直径約8㍉の白い花を多数つけます。果実は直径約6㍉の球形で鮮赤色に熟します。庭木として植栽されています。西アジア原産です。花期は5～6月。



## タチバナモドキ

バラ科トキワサンザシ属の常緑低木。枝はよく分枝し高さ3㍎に達します。トゲとなった短枝があり、葉は互生し、長さ約5㍉の線状長楕円形で基部はくさび形です。5～6月、葉腋の散房花序に直径5～8㍉の白い小さな花を多数つけます。果実は扁円形で橙赤色、頂に萼が残ります。中国西南部原産です。



## フジ（藤）

山野に生えるマメ科フジ属の落葉つる性木本。蔓の巻く方向は左から右の方へ巻き進みます。花序は20～90㍉基部から咲き進みます。藤棚が作られ花見もあります。長洲町では梅田の「天満宮の玉藤」が有名です。ヤマフジは巻き方が反対で、花も同時に上から下まで咲きます。花期は4～6月。



## ネムノキ（合歓の木）

山野に生えるマメ科ネムノキ属の落葉高木。葉が夜になると睡眠運動を起こし、眠ったようになることから名づけられました。葉は2回偶数羽状複葉で、小葉は包丁型をしています。花は線性で先がピンク色で美しいのですが粘性があります。果実は豆果。道路沿いに植栽されます。花期は6～7月。



## ハナズオウ（花蘇芳）

マメ科ハナズオウ属の落葉低木。葉はハート型でやや厚く、表面は光沢があります。主脈は5～7本が放射状に出ています。早春、葉に先立って紅紫色の蝶形花がむらがり付いて咲きます。白花種もあります。花期は3～4月。



## ギンヨウアカシア（銀葉アカシア）

マメ科アカシア属の落葉小高木。葉は偶数2回複葉で3月頃、枝先に黄色の花を沢山つけます。ギンヨウアカシアの事をミモザと云うようですが、ミモザはフサアカシアの事で、羽状複葉の小葉がギンヨウアカシアの倍ぐらいあります。ギンヨウアカシアの小葉は20対ぐらいです。オーストラリア原産。



## イタチハギ (鼬萩)

マメ科の落葉低木。高さ4～6mになり、葉は長さ10～30cmの偶数羽状複葉。小葉は5～10対あり、長蛇円形で、葉をもむと葉草臭がします。6月頃、枝先に穂のような総状花序に暗紫色で長さ約8mmの蝶形花を多数つけます。砂防用や護岸用に植えられたのが各地で野生化しています。北米～メキシコ原産です。



## ヤマハギ (山萩)

山野に生えるマメ科ハギ属の落葉低木。花序が葉序よりも長いのが特徴です。葉は3出複葉で互生しています。花は夏から秋に咲き長さ9～13mm、色は淡紅色。萼片の先がツクシハギより尖っています。



## ミヤギノハギ (宮城野萩)

山野に生えるマメ科ハギ属の落葉低木。茎が垂れ下がるのが特徴で萼片に毛が多く下の萼片が長いです。花期は7～9月。



## マルバハギ (丸葉萩)

日当たりの良い山地に生えるマメ科ハギ属の落葉低木。葉は3出複葉、小葉は長さ2～4㍉の楕円形または倒卵形。葉の脇から葉より短い紅紫色の蝶形花をつけます。民家にも植栽され、花期は9月。



## ハリエンジュ (針槐)

各地に広く自生するマメ科ハリエンジュ属の落葉高木。葉は長さ12～25㍉の奇数羽状複葉、小葉は長さ12～25ミリの楕円形で、先端が少し窪み、小さな突起があります。花は5月頃、本年枝の脇から総状花序を垂らし、長さ1.8～2㍉で芳香のある白い蝶形の花を開きます。別名ニセアカシア。花期は5～6月。



## ナツフジ (夏藤)

山野に生えるマメ科フジ属の落葉つる性木本。蔓は右巻きです。葉は奇数羽状複葉、小葉は5～7対、質は薄く無毛。花は総状花序を出し、白い蝶形の花をつけます。花期は7月。



## モクセンナ

鹿児島島の指宿海岸沿いに多数植栽されているマメ科の常緑小高木。高さ2～7mになります。葉は奇数羽状複葉で薄い洋紙質。小葉は6～9対、長さ2～3cmの卵形～卵状楕円形で全縁。縁が黄色に縁取られています。10月頃、円錐花序に直径2～3cmの鮮黄色の花を付けます。熱帯アジア原産です。



## ハナセンナ

庭に植栽されるマメ科の常緑低木。緑の葉っぱと黄色の花のコントラストが美しいです。何よりの特徴は雄しべの形で、葯の部分が長く茶色をして内側に曲がっています。ブラジル・アルゼンチン原産で別名「アルゼンチンの乙女」とかいい、良い名前ですね。花期は9～11月。



## アメリカデイゴ

暖地に植栽されるマメ科デイゴ属の落葉高木。初夏から秋にかけて、葉と同時に真っ赤な花を長い穂状花序につけます。花は蝶形花で旗弁は幅広で、翼弁と竜骨弁の方向に対して直角です。沖縄のデイゴとは花の時期が異なります。アルゼンチンの国花に指定されています。



## カラタチ

生け垣などとして植えられているミカン科カラタチ属の落葉小高木。高さは4㍎ほどになり、長さ3㍎ほどの鋭いトゲがあります。この鋭いトゲが嫌われ、ブロック塀に置き換えられカラタチそのものも少なくなりました。春、葉が出る前に5弁の白い花をつけます。温州蜜柑の台木に使います。中国中部原産で、花期は4～5月。



## サンショウ（山椒）

山地に自生するミカン科サンショウ属の落葉低木。高さ2～3㍎になり、枝や葉柄の基部に対生するトゲがあります。葉を透かすと透明な油点があり、葉をちぎると強い芳香があります。花は萼片だけで花弁はありません。香辛料として使われ、果実は薬用（薬用酒）として利用されます。



## イヌザンショウ（犬山椒）

山野に生えるミカン科の落葉低木。葉は奇数羽状複葉で互生し、小葉は楕円形。枝に扁平なトゲが互生。葉の縁には透明な小円点があり、ちぎると強い香気があります。8月頃、枝先に淡緑色の小さな花を多数開きます。サンショウに似ているが、花の数が多く、花に花弁があること、葉の香りが悪いことなどで区別できます。



## カラスザンショウ（烏山椒）

暖地の沿岸地や山地に生えるミカン科イヌザンショウ属の落葉高木。葉は対生し、1回奇数羽状複葉で無毛。小葉の葉縁に油点あり、葉をちぎると強い香気があります、とにかく強過ぎます。樹幹に球形のトゲの痕が残っています。



## ニワウルシ（庭漆）

庭や公園に植栽されるニガキ科ニワウルシ属の落葉高木。葉は奇数羽状複葉で互生し、葉柄は基部が膨れ、小葉の先は細くなって尖り、基部が最も幅広いです。6月頃、枝先に円錐花序を出し緑白色の花を開きます。果実は4～5つの翼果で、中央に種子があります。別名：シンジュ。中国北中部原産です。



## センダン（栴檀）

暖地の海岸近くに生えるセンダン科センダン属の落葉高木。葉は2～3回羽状複葉で互生し、小葉は長さ3～6cmの卵状楕円形で先は長く尖り、基部はゆがみ、縁には不揃いの鋸歯があります。花は5月、集散花序に淡紫色の倒披針形の花を付けます。果実は薬用、種子の核は数珠玉に利用します。



## チャンチン（香椿）

センダン科チャンチン属の落葉高木。春の若葉が赤色をしてハゼの木のように見え、綺麗なため街路樹として植栽されます。6～7月、頂部の円錐花序に花を付け、また緑の葉を茂らせます。秋には紅葉しません。中国原産です。



## ユズリハ（譲葉）

暖地の山地に生えるトウダイグサ科の常緑高木。葉は枝先に集まって輪生状に互生、縁は全縁革質で、葉柄は4裂で上面が赤色を帯びています。葉柄が緑色をしたのもあり、通常「アオジク」と称しています。葉を新年の餅飾りに使います。若葉が伸びてから古い葉が落ちるので、譲葉の名があります。花期は5～6月。



## アカメガシワ（赤芽櫛）

トウダイグサ科の落葉高木。葉は互生し、葉脈は3行脈、葉身の基部に一对の腺体があり、若枝・葉・花序に星状毛があります。葉柄も長いです。花は6～7月頃に咲きます。雄花と雌花の違いを観察して下さい。実は3～4鈍稜のある球形で径約7mm、腺粒があり粘ります。樹皮は胃潰瘍などの薬用になります。



## ナンキンハゼ（南京黄櫨）

紅葉が綺麗なので街路樹として植栽されているトウダイグサ科シラキ属の落葉高木。葉は互生し、長さ4～9cmの菱形状広卵形で先は尖ります。6～7月、枝先の葉腋に総状花序を出して芳香のある黄色の花を垂らします。雄花は花序の上部に、雌花は基部につき、蒴果からは口ウが採れます。中国原産です。



## ツゲ（黄楊）

民家の庭などに植えられているツゲ科ツゲ属の常緑低木～小高木。高さは3mほどになり、花は3月頃、小さな花を束生します。葉は対生し、倒卵形で1～2cm、縁が軽く裏面に反り返ります。ツゲは材が硬く緻密なので将棋の駒や櫛、印材などに利用されています。花期は3～4月。



## オオバベニガシワ（大葉紅櫨）

観賞用として植栽されるトウダイグサ科の落葉低木。春の若葉は暗紅色で美しいですが、夏には緑色となります。葉は互生し、長柄があり、托葉は線形、葉身は円心形です。葉身の基部に腺点があります。雌雄同株ですが雄花と雌花が枝を異にしています。



## ハゼノキ（櫨の木）

山野に生えるウルシ科ウルシ属の落葉高木。樹皮は灰白色、縦に割れ目があります。葉は奇数羽状複葉で互生し、ヤマハゼに比べ葉には全く毛がありません。秋になると見事に紅葉し深紅の赤色が綺麗です。果実にも毛が無く、ロウを採るのでロウノキともいいます。花期は5～6月。



## ヤマハゼ（山櫨）

暖地の山野に生えるウルシ科ウルシ属の落葉高木。樹皮に縦の割れ目があります。葉は奇数羽状複葉で、表面に毛が多いので触ってみるとふわっとしています。晩秋の頃見事に紅葉します。しなりがよいので弓の心材に使用されます。人によってかぶれるので注意して下さい。花期は5～6月。



## ヌルデ（白膠木）

山野に生えるウルシ科ウルシ属の落葉小高木。葉は奇数羽状複葉で互生し、葉軸に翼があるのが特徴です。9月、枝先に円錐花序を出し、黄白色の小さな花を多数開きます。葉に出来る虫えいを五倍子（フシ）といい、タンニンを含みます。実からロウが採れます。花期は8～9月。



## ハグマノキ

ウルシ科ハグマノキ属の常緑低木。別名スモークツリーや煙の木などとも呼ばれます。天草市の倉岳町では20年ほど前から花木として栽培されています。花は5月頃に咲きピンクや赤、白などがあります。中国～南ヨーロッパ原産です。



## イヌツゲ (犬黄楊)

山地に生えるモチノキ科モチノキ属の常緑小高木。葉は互生し、楕円形で縁にまばらに鋸歯があります。透視性が不良です。中央脈・側脈は表面に浮き出しています。モチノキの仲間なので死環が現れます。6～7月、葉腋に小さな白い花をつけます。果実は直径5～6mmの球形で黒く熟します。



## ナナミノキ (七実の木)

暖地の山地に生えるモチノキ科モチノキ属の常緑高木。樹皮からトリモチが採れます。葉は互生し、鋸歯があり先端は尻尾状に突き出て、上面が少し紫褐色です。死環ができます。6月頃、葉腋に淡紫色の小さな花をつけ、果実は直径約6mmで赤く熟し、翌年2月頃まで見られます。



## クロガネモチ（黒鉄藟）

暖地の山野に生えるモチノキ科モチノキ属の常緑高木。長洲町の町木で、雌雄異株です。樹皮から鳥もちを採るのでこの名があります。花は4～5月頃、雄花は黄緑色で多数が葉の付け根に盛り上がるように、雌花は数個が目立たずに咲きます。果実は長さ1㍉ほど、少しゆがんだ球形で赤く熟します。



## モチノキ（藟の木）

沿岸地の山地に生えるモチノキ科モチノキ属の常緑高木。雌雄異株。葉を触るとモチモチした感じです。4月頃、葉腋に黄緑色の小さな花を付けます。果実は直径約1㍉の球形（クロガネモチより大きい）で赤く熟します。鳥がよく食べます。樹皮から染料や鳥もちを作ります。



## ソヨゴ（冬青）

モチノキ科モチノキ属の常緑高木。風に吹かれてさやさやと音を立てるので「そよぐ」からこの名が付けました。葉は互生し、葉の縁は波打っています。花は6～7月、雄花は数個が散形につき雌花は1個づつ付きます。果実は球形で赤く熟し直径8㍉ほど。長い果柄があり、果実は垂れ下がっています。



## タラヨウ（多羅葉）

山地に生えるモチノキ科モチノキ属の常緑高木。葉の裏に細い棒で文字を書くと、その部分が黒くなります（死環のためです）。葉書の元祖であり、ハガキの木とも云います。葉は厚い革質で縁に鋭い鋸歯があります。花は4～5月に淡黄色の花を密につけ、果実は6～8<sup>㍉</sup>の球形で赤く熟します。



## シイモチ（椎藺）

暖地の山野に生えるモチノキ科モチノキ属の常緑高木、シイの葉に似ていますが、裏面は淡緑色で死環が出来るモチノキの仲間なのでシイモチといえます。葉は互生、葉の先は尖り、本年枝は緑色です。花期は4～5月。



## シナヒイラギ

モチノキ科モチノキ属の常緑低木～小高木。高さ5<sup>㍎</sup>ほどになります。葉は互生し、革質で、四隅と先端にトゲ状の鋸歯があり、触ると痛い。ヒイラギはモクセイ科で、シナヒイラギはモチノキ科でヒイラギとは葉の形が少し似ているだけで関係ありません。果実は直径3～5<sup>㍉</sup>で赤く熟します。中国東北部原産で、花期は5～6月。



## マユミ (真弓)

山野に生えるニシキギ科ニシキギ属の落葉高木。葉は対生し、楕円形で、先は鋭く尖り、縁には細かい鋸歯があります。蒴花は長さ8~10mmの四角形で、淡紅色に熟して4つに深く裂け、赤い仮種皮に包まれた種子が4個現れます。昔この木で弓を作ったのでこの名があります。庭に植栽され、また盆栽として観賞されます。



## ニシキギ (錦木)

山野に生えるニシキギ科の落葉低木。高さ2mほどになります。花は4~5月に咲き、目立たない黄緑色の小さな花です。特徴は枝にコルク質の翼が出来ることです(翼が出来ないのがコマユミ)。秋に紅葉し、小さな果実を1~2個つり下げます。秋の紅葉が美しいので錦木です。観賞用として庭に植えられます。



## コマユミ (小真弓)

山野に生えるニシキギ科ニシキギ属の落葉低木。枝にコルク質の翼が出来るのをニシキギ、翼が出来ないのをコマユミといいます。葉は対生し、長楕円形です。花は淡緑色で花弁は4枚。小さな果実を1~2個吊り下げ、熟すと赤い仮種皮に包まれた種子が1個出て来ます。花期は5月。



## マサキ（柺）

生け垣などに植栽されるニシキギ科ニシキギ属の常緑小高木。葉は長さ3～7cmの楕円形、縁に鈍い鋸歯があります。花は葉腋から集散花序を出し、直径約5mmの緑白色の花を多数開きます。蒴果は直径7～8mmの球形で淡紅紫色に熟して3～4裂し、橙赤色の種子が現れます。花期は6～7月。



## ヒメマサキ（姫柺）

暖地の沿岸地に生えるニシキギ科マサキ属の常緑低木。マサキに比べ小さいのでこの名があります。葉は対生し、長楕円形で質はマサキより薄く革質です。



## ツルウメモドキ（蔓梅擬）

山野に生えるニシキギ科ツルウメモドキ属の落葉つる性木本。雌雄異株。花は5月、淡緑色の小さな5弁の花を開きます。蒴果は7～8mmの球形で黄色く熟し、果皮が割れると赤い仮種皮に包まれた種子があります。リース材や花材として利用されます。ウメモドキに似てつる性なのでこの名があります。



## テリハツルウメモドキ（照葉つるうめもどき）

沿岸地に生えるニシキギ科ツルウメモドキ属の常緑つる性木本。ツルウメモドキに似て葉は小さく、無毛で革質です。花期は5月。



## ゴンズイ（樅萃）

山地に生えるミツバウツギ科ゴンズイ属の落葉小高木。和名の由来かどうか分かりませんが、樹皮には白くかすれたような模様があり、この模様は魚のゴンズイの背中模様に似ています。果実は袋果で毒々しいほど赤くなり、裂開すると光沢のある黒い種子が現れます。花期は5～6月。



## イロハモミジ（以呂波紅葉）

カエデ科カエデ属の落葉高木。葉は対生し掌状で7深裂、裂片の先は尖り、縁には重鋸歯があります。翼果は葉の上にあります。秋に紅葉し、庭木として植栽されます。葉っぱの数をイロハニホヘトと数えることができます。花期は5月。



## トウカエデ（唐楓）

庭木や街路樹として植栽されるカエデ科カエデ属の落葉高木。葉身が3つに切れ込んでいたので中国では「三角楓」と呼びます。中国原産で1721年、中国から長崎に渡来し、国内に広まりました。



## キミガヨラン（君が代蘭）

沿岸地に生えるリュウゼツラン科ユッカ属の常緑性木本。高さ1.5～2メートルになります。葉は肉厚で硬く先端部は針のように尖り、中心部より太い花茎を伸ばし花を付けます。花は直径5～6センチの釣鐘状、色は淡いクリーム色で独特の匂いがあります。別名ユッカとも云います。花期は6～8月。



## ノブドウ（野葡萄）

野原や山野に生えるブドウ科ノブドウ属の落葉つる性木本。巻きひげが葉と対生しています。葉は互生し3～5裂します。葉を透かすと透明な小点が見えます。果実は球形の液果で淡緑色、紫色、碧色など様々です。花期は7～8月。



## ツタ（蔦）

壁や樹木に巻き付いてのぼるブドウ科ツタ属の落葉つる性木本。巻きひげの先端に吸盤があって、これで吸い付き壁などをよじ登ります。秋の紅葉が美しく、壁面を飾るために栽培されることもあります。花は夏、目立たない黄緑色の花をつけます。和名は“伝う”から来たものです。



## ホルトノキ

暖地の沿岸地に生えるホルトノキ科ホルトノキ属の常緑高木。街路樹として植栽されています。緑の葉に混じって数枚の紅葉した葉がありますので、この模様からモンガシあるいはモガシと呼ぶ地方もあります。果実は1. 5～2擘の楕円形で緑色から黒青色に熟します。



## フヨウ（芙蓉）

庭などに植えられるアオイ科フヨウ属の落葉低木。花は7月の梅雨明け頃から太陽が照りつける中、楚々として美しく淡紅色で直径10擘以上の大輪の花をつけます。朝咲いて夕方しぼむ一日花です。雌しべは筒状になった雄しべから突き出ています（アオイ科の特徴）。花期は7～10月。



## スィフヨウ（酔芙蓉）

フヨウの園芸品種で庭や公園などに植栽されているアオイ科フヨウ属の落葉低木。8月頃から枝先の葉腋に直径約10㍻ほどの大輪の花をつけます。花は一日花で、朝は白色、午後になると淡紅色になり、宵のうちに紅色になり（円内の写真）、まるで酒に酔ったようになるのでこの名があります。花期は8～10月。



## ムクゲ（木槿）

生け垣や公園などに植栽されるフヨウ科フヨウ属の落葉低木。花は一日花で、ふつう紅紫色ですが、白色や八重咲きなど多くの園芸品種があります。葉は互生し、長さ4～10㍻の卵形で浅く3裂し縁に粗い鋸歯があります。中国原産で、花期は7～10月。



## ブッソウゲ（仏桑花）

民家の庭などに植えられるアオイ科フヨウ属の常緑低木で高さ2～3㍻。別名：ハイビスカス。花は8月頃の一番暑い時期に元気よく咲きます。直径約10㍻、花弁は5枚で鮮紅色。円柱状の雄しべが突き出て、その先に雌しべがあり、柱頭は5個。この花を見ると元気が出て来ます。中国南部原産で園芸品種が多く、花期は7～10月。



## アオギリ（青桐）

暖地の沿海地に生えるアオギリ科の落葉高木。成長が早いので街路樹として植栽されます。葉は長さ15～25㍎の大型で浅く3～5裂しています。6～7月、枝先に円錐花序を出し帯黄色の小さな花を多数つけます。果実は長さ8～10㍎の袋果、種子は直径約1㍎の球形で煎って粉にして、コーヒーの代用としました。



## ヤブツバキ（藪椿）

海岸や沿海の山地に生えるツバキ科の常緑高木。単にツバキともいい、厚葉木が語源と考えられています（艶葉木の説もあります）。葉は互生し革質で光沢があり、葉、葉柄、枝ともに無毛です。種子からは椿油が採れます。最近自然志向で椿油を搾る人が多くなりました。花期は12～3月。



## サザンカ（山茶花）

日本の原産種。暖地の山地・里山に生えるツバキ科ツバキ属の常緑小高木。若枝や葉柄に短毛があります。11月頃、径5～7㍎の白い5弁の花をつけます。萼花は直径1.5～2㍎の卵球形で細毛があり、熟すと3裂し黒褐色の種子を出し、これを搾ると椿油に似た油が採れます。民家の庭にも植栽されま



## サザンカ（紅・白）

ツバキ科ツバキ属の常緑小高木でサザンカの園芸種です。通常赤花の八重咲きが多いのですが、シロバナの八重咲きもあります。花期は10～12月。



## ナツツバキ（夏椿）

ツバキ科ナツツバキ属の落葉高木。高さ15mほどになり、樹皮が薄い片となって剥げ落ち赤褐、灰白、灰褐の斑紋が出来ます。6～7月頃白色の5弁花を開き、花径は5cmほど。シャラノキとも呼ばれ、釈迦が沙羅の木の下で亡くなったので、仏教では聖なる木として寺などに植えられます。



## チャノキ（茶の木）

ツバキ科チャノキ属の常緑低木。新芽を摘んで蒸し乾燥したのが緑茶で、日本茶として飲まれます。各地で野生化し湿った森の中で自生状態で見られ、花は10月頃、直径約2cm、白色の5弁花をつけます。新芽を天ぷらにして食べるとお茶の香りがして美味です。古い時代に中国から渡来しました。



## モッコク（木斛）

海岸に近い山地に生えるツバキ科モッコク属の常緑高木。葉は長さ3～7㍎の狭倒卵形で、厚く光沢があります。6～7月、葉腋に白い5弁花を下向きに開きます。果実は長さ1.5㍎の球形で、熟すと皮が裂けて赤桃色の種子が出て来ます。庭木の王様とも呼ばれ民家の庭などに植栽されています。



## サカキ（榊）

林内に生えるツバキ科の常緑高木。葉は互生し、長さ5～8㍎の長楕円形。透視性不良で脈はあまり見えません。花は6～7月に咲き1～3個が下向きに付きます。花弁は最初は白色ですが淡黄色となります。頂芽は緑色で赤みを帯び、長さ1.5㍎ほどで少し曲がり角状です。小枝を神前に供え、また神事に使います。



## ヒサカキ（非榊・姫榊）

山地・里山に生えるツバキ科ヒサカキ属の常緑小高木。サカキより小さいので、ヒメサカキがヒサカキに。雌雄異株。葉は互生し、縁に鈍い鋸歯があります。葉の先端が僅かに窪んでいます。3月頃、葉腋に直径5～6㍎の花を束生します。雄花と雌花の違いを見て下さい。通常シバ、又は神さんシバとも云います。



## ハマヒサカキ（浜非桧）

暖地の海岸に生えるツバキ科ヒサカキ属の常緑低木。雌雄異株。葉の先端は丸く、僅かに窪みます（ヒサカキに似ています）。互生し、長さ3～4㍎長倒卵形。縁は裏面側に反り返っています。花は10～2月、葉腋に緑白色の小さな花を付けます。海岸に生えるのでイソシバとも云います。



## ジンチョウゲ（沈丁花）

ジンチョウゲ科の常緑低木。3月頃、紅紫色の萼筒（がくとう）の先が4裂した花が、かたまつて咲き、香りがよいです。春の訪れを告げてくれます。日本にあるのは雄株の木なので果実が出来ません。花の香りを沈香・丁子の香りに例えた名です。中国原産です。園芸種の中に花が白色のシロバナジンチョウゲがあります。



## クスドイゲ

沿岸地に生えるイイギリ科の常緑低木。鋭いトゲがあるので庭木として植栽されます。葉は互生して長さ4～8㍎の卵形、基部は円形、先は少し尖ります。葉柄は3～5㍎で赤色を帯びています。葉の脇から10～15㍎の鋭いトゲが出ています。



## ナワシログミ（苗代菜萼）

暖地の海岸近くに生えるグミ科グミ属の常緑低木。苗代を作る頃に果実が熟すのでこの名があります。小枝にトゲがあり、冬芽は裸芽です。葉は互生し葉縁が波打ち、裏面には褐色と銀色の鱗片（鱗片毛という）が多いです。花は10月頃に咲き、果実は長さ1.5㍎ほどの長楕円形で、翌年の5月頃に熟し食べられます。



## ナツグミ（夏菜萼）

山野に生えるグミ科グミ属の落葉小高木。葉は互生し、長さ3~10㍎の長楕円形または倒長楕円形。裏面には褐色の鱗片毛があります。4~5月、葉腋に数個の花が垂れ下がって咲き、萼筒の長さは7~8㍎です。果実は広楕円形で6月頃赤く熟し食べられます。



## アキグミ（秋菜萼）

日当たりの良い川原や原野に生えるグミ科グミ属の落葉低木。葉は互生、縁は全縁で裏面と葉柄には白い鱗片毛が密生しています。4~5月、葉腋に白い花が数個ずつ集まって咲きます。果実は6~8㍎の球形、10~11月に赤く熟し食べられます。木は防風、治山用として植栽されます。



## トウグミ（唐茱萸）

グミ科グミ属の落葉低木。花は4月～5月にかけてグミ科独特の花が咲きます。夏に赤く熟し食べられ、渋みがあります。大きな果実が実るビックリグミはトウグミの仲間です。ビックリグミは食べられ、果実酒にもします。



## ザクロ（石榴）

民家近くに植栽されているザクロ科の落葉小高木。昔は民家近くにも多数見られましたが、最近は少なくなりました。6月頃、直径約5浬の朱赤色の花を開きます。果皮は厚く、熟すと不規則に裂け、淡紅色の種子が現れます。果実は酸味があって美味です。中近東～西アジア原産です。



## サルスベリ（百日紅）

庭や街路樹として植栽されるミソハギ科サルスベリ属の落葉小高木。夏の暑い最中に紅紫色または白色の花弁が不規則に縮れた美しい花をつけます。サルスベリの葉序は通常互生ですが、左左右と2個ずつ互生する葉があります。このような葉序をコクサギ型葉序といいます。中国南部原産で、花期は7～9月。



## ノボタン

熱帯～亜熱帯系ノボタン科の落葉低木。樹皮は暗褐色、葉は長さ3～4㍎の線形で軟らかく、触っても痛くありません。花は7～8月、紅紫色で径6～8㍎、枝先に数個つけます。雄しべ10個で、葯が鎌状に曲がっています。花が綺麗なので観賞用として植栽されます。写真はシコンノボタン。



## ブラシノキ (錦宝樹)

公園や庭に植栽されるフトモモ科ブラシノキ属の常緑小高木。赤い花が試験管ブラシそっくりです。赤く見えるのは雄しべの花糸です。葉を透かして見ると小さな明点があります。オーストラリア原産で乾燥にも強い木です。実がいつまでも落ちず残り、山火事などで木が枯れた時、種子が飛び出します。花期は5～6月。



## タラノキ (櫨の木)

裸地の先駆植物として日当たりの良い山野に生えるウコギ科タラノキ属の落葉低木。葉は2回奇数羽状複葉、葉は枝先に集まって互生しています。側小葉は対生し、先は尖り鈍鋸歯。全体にトゲが多いです。花は8月頃に咲きます。新芽は天麩羅にして美味。4～5月頃、民宿に泊まると必ず食卓を飾ります。



## ヤツデ（八手）

暖地の沿岸地に生えるウコギ科ヤツデ属の常緑低木。葉は大きく長さ20～40㎝で掌状に7～9裂し、厚くて光沢があります。莖先の円錐状花序にボール状の小散形花序をつくり、直径2～3㎝の小さな花を多数つけます。花の直径は約5㎜、両性花と雄花があります。花期は10～11月。



## カクレミノ（隠蓑）

暖地の沿岸地に生えるウコギ科カクレミノ属の常緑高木。葉の形を雨具の蓑に例えてこの名があります。葉の形が木の生長によって3裂（中には4～5裂したのもある）、2裂、楕円形と変化します。7月頃、緑色の小花を散形につけ、果実は冬に黒く熟し、長さ1㎝ほどで先端に花柱が残ります。



## キツタ（木蓑）

茎から気根を出して、木や岩に這い登るウコギ科キツタ属の常緑つる性。葉は互生し、長さ3～7㎝の広卵形～菱形または浅く3～5裂し、全縁です。脈は3～5行脈。花は秋に咲きます。実は8～10㎜の球形で頂部に丸い花盤が残り黒く熟します。花期は10～12月。



## サンシュユ（山茱萸）

ミズキ科ミズキ属の落葉小高木。「稗つき節」の一節にある「庭のサンシュユの木」のサンシュユです。下面側脈のわきに褐色の毛があります。葉のでる前に散形花序に黄色の小花が集まって咲きます。果実は長楕円形で赤熟し、果実酒にして強壯の薬効があります。中国原産で、花期は3月。



## ヤマボウシ（山帽子・山法師）

山野に生えるミズキ科ヤマボウシ属の落葉高木。白い花卉のように見える苞を頭巾に、蕾を坊主頭に見立てて法師を連想した名前。花は中心にある小さな固まりで緑色をしています。果実は秋に紅く熟し食べられますが、よく熟した実を食べて下さい、美味しいです。花期は7月。



## ハナミズキ（花水木）

ミズキ科ミズキ属の落葉高木。萼片が白色です。赤色の萼片があるのをアメリカハナミズキまたはベニバナハナミズキと呼びますので、区別するために萼片が白色なのをハナミズキとしました。



## ベニバナハナミズキ（紅花花水木）

ミズキ科ミズキ属の落葉高木。花は枝先に1個つき、淡紅色で長さ4～5㍉の4枚の総苞片が花弁のように開き、中央に黄緑色の小さな花がボール状に集まっています。果実は楕円形で赤く熟します。ハナミズキの園芸種で、北アメリカ原産でアメリカハナミズキとも云います。花期は4～5月。



## アオキ（青木）

山地の林下に生えるミズキ科アオキ属の常緑低木。雌雄異株。アオキは1年を通して緑の葉っぱを保つので冬場の牛馬や山羊の飼料として過去栽培されました。日陰に育つ陰樹で葉は対生し、艶があり乾けば黒変します（押し葉には不向きです）。果実は艶のある赤色で長さ2㍉弱、綺麗です。花期は3～4月。



## ファイリアオキ（斑入り青木）

林内に生えるミズキ科アオキ属の常緑低木です。葉に白色～クリーム色の斑点が入っています。果実は艶のある赤色で、長さ1.5㍉ほどの楕円形です。斑入りの葉と果実がきれいなのでアオキと同様に庭などに植栽されます。



## ヤマツツジ (山躑躅)

山野に生えるツツジ科の半落葉低木。葉は互生ですが枝先に束生しています。花は若葉の時期に開花。雄しべは5本で、薄茶色を帯びた葯を持つのでサツキと区別できます。花は朱赤色で、実は細い卵形で、硬い毛に覆われています。秋葉は晩秋から冬にかけて少し紅葉します。花期は5月中旬。



## サツキ (皐月)

ツツジ科ツツジ属の常緑低木。多くの園芸種があり広く栽培されています。6～7月、枝先に朱赤色～紅紫色の花を1個（まれに2個）つけます。上弁に濃い斑点があり、雄しべは5個、葯の色は暗紫色でヤマツツジと区別できます。蒴果には褐色の剛毛があります。庭木、盆栽、花材として用いられます。



## ヒラドツツジ (平戸躑躅)

ツツジ科ツツジ属の常緑低木。長崎県の平戸市に古くから植栽され、各地に広まった大型のツツジです。花の色も紅紫色、濃紅色、淡紅色、白色の他、白色に濃紅色の斑点があるものなど彩りは様々で、観賞用に各地で植栽されています。花期は4月中下旬。



## アセビ（馬酔木）

山地に生えるツツジ科アセビ属の常緑小高木。有毒植物で、牛馬がこの葉を食べると麻酔するので馬酔木といいます。葉は枝先に集まって互生。花は4月頃、壺形で下向きに咲き、花が終わると花柄の先が屈曲して上向きとなり、翌年花の咲く頃まで残っています。花期は3～5月。



## シャシャンボ（小小ん坊）

暖地の山野に生えるツツジ科スノキ属の常緑小高木。花は7月頃白色の壺型の花を開き、包葉があります。果実は液果は直径約5mmの球形で、晩秋の頃黒紫色に熟し、粒は小粒ですが甘酸っぱくて美味しいです。昔チャセビと呼んでいました。



## ジャノメエリカ

庭などに植栽されるツツジ科エリカ属の常緑低木。高さ2mほどになり、小枝の先に花をつけます。花は薄紫色の小さな鐘形で、黒い葯が目立ちます。花と葯の色からこの名がつけました。冬から春にかけて咲きます。南アフリカ原産で、アフリカエリカともいいます。花期は2～3月。



## スズランノキ

ツツジ科の落葉低木。スズランに似た白い釣鐘状の花が一列に垂れ下がって咲くのでこの名があります。北米原産で、花は7月頃に咲きます。



## マンリョウ (万両)

暖地の林内に生えるヤブコウジ科の常緑低木。冬、赤い実が綺麗なので観賞用に植栽されます。葉縁に腺体が見られ、葉を透かすと小さな点が散在しています。7月頃、小枝の先に直径約8mmの花を散房状につけ、花冠は白色で5深裂、果実は球形で赤く熟します。百両、千両、万両など語呂合わせもよく庭に植えられます。



## ヤブコウジ (藪柑子)

山地の樹林の下に生えるヤブコウジ科ヤブコウジ属の常緑低木。赤く熟す実が可愛いので、お正月の鉢物として寄せ植えなどに使われます。千両や万両に対して十両の名で呼ばれます。花は夏、葉の下で隠れるように白い花が咲きます。冬に赤い実が垂れ下がり、球形で直径6mmほどです。



## カラタチバナ（唐橘）

暖地の山野に生えるヤブコウジ科ヤブコウジ属の常緑低木。百両ともいいます。葉は互生し、披針形。濃緑色で質は厚く、縁に腺点が並んでいます。果実は直径6～7mmの球形で葉の下にあり垂れ下がります。晩秋の頃、赤く熟し、お正月の飾りに使います。花期は7月。



## クロキ（黒木）

暖地沿岸地の林内に生えるハイノキ科ハイノキ属の常緑高木。樹皮は黒褐色で頂芽は根本が太く、先は尖っています。若枝は稜があり、角張っています。3～4月、葉腋に白い花が集まってつき、花冠は直径7～8mmで5深裂し、多数の雄しべが目立ちます。果実は長楕円形で秋に黒熟します。



## ヤマガキ（山柿）

カキノキ科カキノキ属の落葉高木。樹皮は灰褐色で縦に裂けます。若枝は褐色の毛を密生しています。葉は互生し、長さ7～15cmの広楕円形～卵状楕円形で全縁。果実は直径4～8cmと大きく、未熟な果実からは渋を採れます。熟した果実は食用となり美味です。



## エゴノキ（野菜莉）

山地に生えるエゴノキ科エゴノキ属の落葉高木。葉腋に芽が2個あり、小さい方を側芽といいます。晩春に径約2・5㍎の白い5弁花が並んで下がり、微かに良い香りがします。実は約1㍎の球形でぶら下がります。実は有毒。猫の足の先に似たネコアシと呼ぶ虫えいが出来ます。材はコマやコケシに使われます。花期は5～6月。



## キンモクセイ（金木犀）

モクセイ科モクセイ属の常緑高木。葉は対生し、脈は表面で窪み裏面に隆起しています。葉の透視は良く細脈まで見えます。花は橙黄色で強い芳香があり、近くを通り、この金木犀の香りで花の開花を知ること多いです。雌雄異株で日本には雄株のみなので果実が見られません。中国原産で、花期は10月。



## ウスギモクセイ（薄黄木犀）

モクセイ科モクセイ属の常緑小低木。葉は対生し、長さ8～13㍎の長楕円形。キンモクセイに比べ葉の色がやや薄いようです。花は黄白色でよい香りがします。花期は10月。



## ネズミモチ（鼠糞）

暖地の山野に生えるモクセイ科の常緑高木。和名は実がネズミの糞に似た色と形で、木はモチノキに似ることによります。初夏の頃、円錐花序に白い4弁花を密につけます。実は長さ7～10ミ、鼠の糞そっくり。最近では葉や実が大きい中国原産のトウネズミモチが公園などに多く植栽されています。実は強壯薬などに使用されます。



## ヒイラギ（柊）

山地に生えるモクセイ科モクセイ属の常緑高木。雌雄異株。葉のトゲに触れるとひいらぐ（ひりひり痛む）ことからこの名が付いたといわれます。古くから邪気を払うと信じられ、玄関脇などに植えたり、節分の行事などに使われます。日本には生えるのは雄株のみといえます。花期は11～12月。



## ヒイラギモクセイ（柊木犀）

庭や公園などに植栽されるモクセイ科モクセイ属の常緑小高木。ギンモクセイとヒイラギの雑種です。花はギンモクセイに似ていますが葉の縁にトゲ状の鋸歯をつけヒイラギよりも鋸歯の数が多いです。10月頃、芳香のある白い花を付けます。



## シマトネリコ

亜熱帯の山地に自生するモクセイ科トネリコ属の半落葉高木。葉は奇数羽状複葉で、小葉は2～5対あり革質全縁。裏面主脈状に開出毛が見えます。5月頃、本年枝の先や葉腋に円錐花序を出して、白い小さな花を付けます。果実は翼果で長さ1.7～2.3cmほどの倒披針形です。民家の庭木として植栽されています。



## ヒトツバタゴ

モクセイ科ヒトツバタゴ属の落葉高木。日本では愛知県、岐阜県、対馬にだけ自生する珍木のひとつ。本年枝の先の円錐花序に白い4弁花を多数つけます。花冠は4深裂し、裂片は長さ1.5～2cmの線形。対馬の自生種が各地に植栽されています。別名：ナンジャモンジャ。花期は5月。



## ライラック

庭や公園などに植えられるモクセイ科ハシドイ属の落葉低木。リラの名前でよく知られています。葉は対生し、長さ5～12cmの卵形で先は尖り、基部は心形。全縁で革質。4～5月、枝先の葉腋から円錐花序を直立させ、淡紫色の花を密につけます。強い芳香があり、香水の原料にも使われています。



## シナレンギョウ（支那連翹）

モクセイ科レンギョウ属の落葉低木。庭木として植栽されます。葉は対生し、上半分に鋸歯があり、幅は半ばよりやや上が幅広いです。葉より早く直径約2.5cmの黄色の4弁花を開きます。花は花柱が長く、花弁の幅が先端までほぼ同じです。中国原産で、花期は4月。



## チョウセンレンギョウ（朝鮮連翹）

庭などに植えられるモクセイ科レンギョウ属の落葉低木。葉は対生し、上半分に鋸歯があります。シナレンギョウに似ていますが、葉の幅は下半分が幅広く、シナレンギョウは上の方が幅広いので区別できます。花は3～4月、前年枝の葉腋に黄色の花を開き、花弁は少し尖り気味です。朝鮮原産です。



## キソケイ（黄素馨）

庭木として植栽されているモクセイ科ソケイ属の常緑低木。葉は奇数羽状複葉で互生しています。小葉の葉軸に浅い溝があります。6～7月頃、枝先に散房状の花序を出し、筒型の黄色の花を開き、花冠の先は5裂しています。ヒマラヤ原産です。



## ウンナンオウバイ（雲南黃梅）

庭木や公園などに植栽されるモクセイ科ソケイ属の常緑半つる性木本。枝は四角形で垂れ下がります。葉は3出複葉で対生です。3～4月頃、葉の出る前に直径約4㍎の黄色の花を開きます。



## オウバイ（黃梅）

庭などに植えられるモクセイ科ソケイ属の落葉半つる性木本。枝はよく分枝し垂れ下がり、葉は3出複葉で対生しています。春先、葉より前に前年枝の葉腋に直径2.5～4㍎の黄色の花を開き、花冠は筒状で先端は6裂しています。中国原産で、花期は2～4月。



## キョウチクトウ（夾竹桃）

公害に強いので緑化樹として植栽されるキョウチクトウ科の常緑低木。高さは3㍎ほどになります。葉は普通3個が輪生し、質は厚くて光沢があります。6～9月、枝先に集散花序を出し直径4～5㍎の花を多数つけます。花冠は筒状で先は5裂して平開します。花の色は淡紅色、白色などがあります。インド原産です。



## テイカカズラ（定家葛）

山野に生えるキョウチクトウ科テイカカズラ属の常緑つる性木本。葉は対生し、縁は全縁、革質で光沢があります。花は白色で直径2～3㍉の芳香のあるスクリュー形です。果実は袋果で熟すと先端に長さ約3㍉の白い冠毛を持った種子が風に乗って遠くへ運ばれます。花期は5～6月。



## チシャノキ（葛苺の木）

暖地に生えるムラサキ科チシャノキ属の落葉高木。葉の形状や樹皮の状態がカキノキに似ているのでカキノキダマシとも呼ばれ、老木になると縦の割れ目が出来ます。6～7月頃、枝先の円錐花序に、多数の白い小さな花をつけます。成長が早く都市の環境にも強いようです。



## ムラサキシキブ（紫式部）

山野に生えるクマツツラ科ムラサキシキブ属の落葉低木。若枝は細く星状毛があります。葉は対生し、縁の上半分に鋸歯があり、両面とも無毛で、裏面に腺点があります。花は6月、葉腋から集散花序を出し、ピンク色の小さな花をつけます。果実は直径3㍉ほどの球形で紅紫色。紅紫色の果実の美しさを紫式部に例えた名前です。



## ハマゴウ（浜栲・浜香）

海岸の砂地に生えるクマツツラ科ハマゴウ属の落葉小低木。枝は四角形で、高さ60㍻ほどになります。葉は対生し縁は全縁です。裏面に灰白色の軟毛を密生しています。8月頃、枝先に青紫色の花を多数つけます。香りがよいので線香の原料に使われ、果実は直径5～7㍻の球形で淡黒色に熟します。実は薬用で風邪や頭痛に。



## クサギ（臭木）

クマツツラ科クサギ属の落葉小高木。葉は対生し、三角状広卵形で3行脈。葉柄は向かい合うものどうしの長さが異なります（観察して下さい）。枝や葉を傷つけると悪臭があるのでこの名があります。星形に開いた赤い萼片も花以上に目立って綺麗です。若葉は食用に、根は薬用になります。花期は8～9月。



## ボタンクサギ（牡丹臭木）

クマツツラ科クサギ属の落葉低木。葉は対生、縁に不揃いの鋸歯があり、両面脈状に毛があってざらつきます。枝や葉を折ると強い臭気が出ます。枝先に半球状の集散花序を出して、赤紫色の小さな花を密生します。牡丹の葉に似て臭いのでこの名があります。中国原産で、花期は8～9月。



## クコ（枹杞）

沿岸地に生えるナス科クコ属の落葉低木。莖は根元から束生し、枝は弓状に曲がって垂れ下がります。若枝には稜が見られます。8～11月、葉腋に直径1㍉ほどの紫色の花をつけ、雄しべの根元に白い毛が密生しています。果実は橙紅色に熟し食べられ、また薬用、クコ酒などに使います。



## ニオイバンマツリ（匂蕃茉莉）

庭などに観賞用として植栽されているナス科バンマツリ属の常緑低木。葉は長さ5～10㍉の広楕円形。花期は7～8月で直径約4㍉、淡紫色の花を開き、花は2日ほどで白くなります。香りの良い熱帯アメリカ原産で、通称マツリカと云っています。



## ヤコウボク（夜香木）

花の香りがよいので観賞用として植栽されているナス科キョウジ属の落葉低木。葉は長楕円形で先端は尖り、長さ10㍉ほど。8月から9月にかけて筒状の白い花を開きます。花は夜に咲き香りがよいのでこの名があります。夜香花、あるいはナイトジャスミンの別名があります。西インド諸島原産です。



## キダチチョウセンアサガオ

ナス科チョウセンアサガオ属の常緑低木。トランペットのような大型の花が垂れ下がるのでエンゼルストランペットの別名があります。花には芳香があり、夜に香ります。ブラジルやインド原産で、花期は6～7月。チョウセンアサガオ属の植物は有毒物を含むので取扱注意。



## ノウゼンカズラ

庭などに植えられているノウゼンカズラ科のつる性落葉低木。7月頃枝先に朱橙色のラッパ型をした花をつけます。花の蜜が目にはいると目がつぶれるなどという迷信がありました。今では庭にもよく植えられています。円内の写真は赤味の濃いアメリカノウゼンカズラで、花も小さめです。中国原産です。



## オオヤエクチナシ(大八重山梔子)

庭や公園などに植栽されるアカネ科クチナシ属の常緑低木。葉は対生し長さ5～17㍍の長楕円形で革質。縁は全縁で葉の表面は光沢があります。6～7月、枝先の葉腋に芳香のある白色で八重咲きの花を1個ずつ付けます。



## クチナシ（山梔子）

暖地の林下に生えるアカネ科の常緑低木。実が熟しても口を開かないのでクチナシといいますが、花は花弁6枚、雄しべ6本で、萼片も6本あります。果実には6本の稜翼があり、その先端に6本の萼片が残っています。8月頃から熟す果実は、黄色の染料や吐血、利尿の生薬としても利用されます。栗きんとんの着色に使います。



## ハクチョウゲ（白丁花）

生け垣などに植栽されているアカネ科ハクチョウゲ属の常緑小低木、高さ0.5～1m。葉は長さ1～3cmの狭楕円形で縁は全縁。5～6月、葉腋から出る短枝に白色の花を1～2個つけます。花冠は長さ1～1.2cmの漏斗形で先は5裂しています。花柱の長い花と短い花があります。



## スイカズラ（忍冬）

山野に生えるスイカズラ科スイカズラ属の半落葉つる性木本。初夏の頃、芳香のある白から黄色に変わる花が1対ずつ並んで咲きます。浅く4裂した上唇と1片の下唇とに分かれ、5本の雄しべと1本の花柱があります。花の根もとに包葉があります。花は芳香が強いですので付近にハチなどが乱舞しています。花期は5～6月。



## キダチニンドウ（木立忍冬）

山野に生えるスイカズラ科の常緑つる性木本。葉は対生、全縁で、葉柄は約8ミリの。葉柄、花枝にも毛があります。裏面脈状にも毛が多く、黄色の腺点が多数あります。花は白色、後に黄褐色になります。花は強い香りがあり、花の近くではハチなどが飛び回ります。似た種のハマニンドウは、毛も腺点もありません。花期は5月。



## ハコネウツギ（箱根空木）

スイカズラ科タニウツギ属の落葉高木。葉は長さ7～16センチの広楕円形または広倒卵形で先端は尖り、基部は広い楔形。枝先や葉腋に白色から赤色に変わる5弁花が1～3個ずつ咲きます。花筒の下半分が急に細い筒となるのが特徴です。観賞用として庭・公園などに植えられています。花期は5～6月。



## タニウツギ（谷空木）

日本海側の山野に生えるスイカズラ科タニウツギ属の落葉低木。庭木として植栽されています。葉は対生し、長さ4～12センチの楕円形で、縁には低い鋸歯があります。裏面には白い毛が多いです。花は始めからピンク色。花冠は長さ2.5～3.5センチの漏斗型。筒は短く先は5裂しています。花期は4～5月。



## ハナゾノツクバネウツギ

公園や道路わきの植え込みとして植栽されるスイカズラ科ツクバネウツギ属の常緑低木。高さ3㍎ほどになります。花期が7～11月頃までと長く、白色で長さ2㍎、先端が5裂した筒状鐘形の花をつけます。花に少し芳香があります。中国原産の雑種で、アベリアとも云います。



## コバノガマズミ (小葉の莢ズミ)

山地、山野に生えるスイカズラ科ガマズミ属の落葉低木。低い山地に生え、高さ2～4㍎。ガマズミに比べて葉が小さくて細長く、裏面に星状毛や腺点があります。披針形の托葉があるのが特徴です。装飾花はありません。果実は秋に赤く熟します。庭園樹として植栽されます。花期は4月。



## ガマズミ

山地山野に自生し庭にも植栽されるスイカズラ科ガマズミ属の落葉低木。葉は対生し、葉縁に荒い鋸歯があります。花は小さくて直径5㍎ほどですがびっしりと集まって一輪の花のように見えます。果実は秋に赤く熟し食べられます。果実酒にすると綺麗な赤色となり滋養強壯の薬効があります。花期は4～6月。



## オオデマリ（大手毬）

スイカズラ科ガマズミ属の落葉低木で、観賞用として庭や公園に植えられ、花は全て装飾花です。高さ1～3m。葉は長さ5～16cmの広楕円形で平行する側脈はヤブデマリより多いです。花は最初は緑色で次第に白色となります。花序は直径12cmぐらい。別名：テマリバナ。花期は4～5月。



## ハクサンボク（白山木）

暖地の沿岸地に生えるスイカズラ科ガマズミ属の常緑低木。スイカズラ科の常緑樹はハクサンボクのみです（沖縄を除く）。葉は革質で光沢があります。4～5月、枝先の集散花序に白い花を多数つけます。赤い実がきれいなので庭木として植栽されます。



## サンゴジュ（珊瑚樹）

沿岸地の山野に生えるスイカズラ科ガマズミ属の常緑高木。葉は長楕円形で対生し、側脈の脇は裏面で窪み表面に隆起。縁は全縁か波状に鋸歯があります。赤い実が珊瑚のように美しいことから「珊瑚樹」と呼びます。防火樹として植えている山もあります。

